

愛知医科大学学報



令和5年度総合防災訓練～応急処置訓練及び病院内トリアージ訓練～
(関連記事7頁)

＝ 第172号 ＝

2023.10月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1

〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス

www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

令和6年度予算編成方針	2
令和5年度総合防災訓練実施	7
愛知医科大学公式SNS運用開始	10
教授就任インタビュー	13
看護学教育評価における実地調査実施	17
2023年度医学部白衣式挙行	18
大学病院～新センターのご紹介～	24
教育・研究最前線	40
Smile ～スマイル～	41

令和6年度予算編成方針

I 基本方針

令和になってからの本学における経常収支差額は、令和元年度3.8億円、2年度9.6億円、3年度15.8億円と順調に伸ばしてきましたが、令和4年度の決算では550億円を超える事業規模としながらも、医療収入に伸びを欠き2.6億円に落ち込み、事業収支では更に厳しく4,200万円と何とか黒字を維持できたという結果でした。これは、当初見込んだ収入予算は達成できなかった中、学修環境の整備、大学院としての機能向上のための機器の更新・整備など、将来に向けての対策の手を緩めることなく講じた結果でもあります。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受ける中でも怯むことなく努力を積み重ね、財政基盤を整えてきたところではありますが、昨今の物価高騰による多岐にわたる経費増、人員不足の影響も決して小さくありませんでした。

こうした状況に対応する手段ですが、収入面で経費増を転嫁する余地は、本学の収入の大きな要素を医療収入が占める状況下では限られ、そのほかの収入要素についても他機関とのバランスを取る必要があるなど、直ちに対応策をとれるようなものではなく、引き続き厳しい環境が続いていくことが予想されます。

このような状況下ではありますが、愛知医科大学の次の50年に向けての改革は何としても成功させねばなりません。目下、様々なプロジェクトが展開されており、メディカルセンターの開院、眼科クリニックMiRAIの設置に始まり、医心館など学生生活に関連する環境の整備も盛り込まれています。今、注目のリハビリ医療の充実に向けてスタッフを増強しつつ、具体的な施設の改修に入ります。

また、がん医療の推進や化学療法室の活性化など一段と力が入ります。同時に、システム改革として救急医療体制改革、働き方改革が実行段階に入ります。更には、メディカルセンターや眼科クリニックMiRAIも初期整備期間からいよいよ本格稼働の時期を迎え、更なる発展が期待されるところです。

こうした状況を踏まえ、令和6年度予算編成においては、将来に向けた持続可能な法人運営を進めながら、イノベーションプロジェクトの実現に向けた施策を推進するため、そして、将来に向けた投資的経費や新規事業に取り組む財源を確保していくために、限られた財源を効率的・効果的に配分し、「最少の経費で最大の効果」を挙げるべく、全ての事業について緊急性や必要性、費用対効果を十分に検証した上で見直しに取り組み推進を図る一方で、役割を終えた既存事業の廃止・見直しも手抜きなく取り組むことで、選択と集中による戦略的な財政運営を推進することを基本方針とします。

II 重点事業

令和6年度予算編成は、資金収支予算ベースでは経済変動の影響を柔軟に受け止めるとともに、いざというときの瞬発力となる繰越支払資金の積み上げ目標金額を10億円とし、事業活動収支予算ベースでは、経常収支の黒字予算確保を図ることとします。

上記の考えを具体の予算に反映するため、各編成単位においては中長期的な観点に立った次の「重点事業の目的」に合致した計画立案を求めるとし、定量的な成果が見込める事業を優先します。

<重点事業の目的>

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 1 教育機関としての成果が期待できる事業 | 6 創立50周年記念事業 |
| 2 研究支援体制の強化に係る事業 | 7 イノベーションプロジェクト事業 |
| 3 患者を集め、治療し、それを収益に結び付ける病院の機能活性化推進事業 | 8 大学・病院の機能維持に必要な大規模修繕工事 |
| 4 医療収入・薬品材料費・診療材料費・人件費（法人全体） | 9 厳に必要となる事業で、予算会議での議論を要するもの |
| 5 私立大学等改革総合支援事業対策 | |

創立50周年記念事業募金のご協力をお願い ～先進の医療を人と社会と未来へつなぐ～

愛知医科大学は、昭和46年（1971年）に設置認可を受け、翌昭和47年（1972年）4月に開学しました。その後大学院医学研究科（1980年）、看護学部（1999年）、大学院看護学研究科（2003年）を開設し、現在は2学部・2大学院研究科の学園体制となっています。

「建学の精神」の下、「社会から評価され、選ばれる医科大学」を基本方針として定め、学是「具眼考

究」を掲げ、教育・研究・診療の各分野において活躍すべく、勇往邁進に取り組んで参りました。

本学は、令和4年（2022年）4月に創立50周年を迎えました。次なる50年へ本学が飛躍していくため、「創立50周年記念事業（教育・研究・診療の基盤整備事業）募金」の趣旨をご理解いただき、募金に対しまして格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

《創立50周年記念事業募金概要》

- 募 金 目 的 創立50周年を記念して行う本学の発展に向けた教育・研究・診療の基盤整備（施設・設備）事業資金
- 目 標 金 額 10億円
- 募 集 金 額 個人1口1万円、法人1口5万円
※できましたら、多数口のご協力をお願い致します。
- 税制優遇措置 所得税（法人税）上の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。

（寄附金額^{※1} - 2,000円）× 40% を所得税から直接控除^{※2}

※1 年間寄附金合計額が年間総所得額等の40%が限度

※2 所得税額の25%が限度

＜計算例＞ 愛知医科大学へ10万円寄附
（寄附金額 100,000円 - 2,000円）× 40% = **税額控除額 39,200円**

【寄附特典】 創立50周年記念グッズの進呈

1回の寄附金額 1万円以上



カラビナソーラーライト（LEDソーラーライト）

1回の寄附金額 10万円以上



電子体温計（平均20秒予測検温）



お問合せ先

学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室
TEL (0561) 63-1062 FAX (0561) 62-4866
E-mail : sikin@aichi-med-u.ac.jp



愛知医大 募金 検索

創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名 (敬称略)

創立50周年記念事業募金（創立50周年に向け先行した教育・研究・診療の基盤整備事業募金含む）にご協力いただき、心より御礼申し上げます。

ご寄附をいただいた皆さまへ深く感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。

(平成30年4月1日～令和5年10月31日現在)

募金総額：874,186,053円 募金者数：個人781件、法人・団体204件

<個人>

青木 重久	青鹿 昌純	青山 邦彦	青山 俊博	青山 正寛	秋山 邦夫	秋山 征巳
浅井 和子	朝井 規仁	浅井 紀裕	浅井 博行	浅野 公造	浅野 貴徳	足立 義一
渥美 一成	阿部 綾香	天池 要治	天野 哲也	雨宮 三保子	鮎川 浩志	有木 玄
有馬 隆紘	有村 隆	有賀 雅和	安藤 靖	飯田 章人	飯田 和子	池田 亜紀
池田 樹一	石川 厚子	石川 俊一	石澤 義也	石島 正嗣	石田 漂太	伊地知 直樹
石橋 宏之	石原 幸司	石原 成光	出田 祐久	泉 雅之	井田 雅章	市川 嘉一
市野 光太郎	伊藤 昭和	伊藤 恵一	伊藤 孝太郎	伊藤 壽美	伊藤 后子	伊藤 恭彦
犬丸 達也	井上 順子	井上 里恵	今井 紀子	今井 裕一	今枝 佑輔	岩田 裕次
岩船 徹雄	岩村 文貴	上野 隆彦	植村 敏男	宇佐美 覚了	宇佐美 公子	牛田 享宏
白井 達哉	内田 稔也	内山 弘子	内海 眞	上森 文裕	戎井 浩二	遠迫 克昭
遠藤 真琴	老沼 和弘	大下 孝史	大須賀 友晃	太田 浩敏	大継 一博	大野 和子
大野 晃司	大野 則和	大橋 由政	大山 哲	岡 義隆	岡川 友子	岡川 行重
岡澤 光修	岡田 永三	岡田 耕一	緒方 昌平	岡田 太郎	岡野 敏明	岡野 七重
岡村 憲樹	岡本 英文	岡本 雄一	岡本 利一	小川 麻子	小川 徳雄	奥田 直樹
奥永 知宏	奥山 誠	長田 和久	折本 有貴	各務 秀明	景山 和幸	笠井 謙次
葛西 博幸	梶浦 克之	梶浦 義弘	春日 慎一	春日井 邦夫	春日井 孝	片桐 仁
勝野 正英	加藤 和紀	加藤 浩二	加藤 純子	加藤 豊文	加藤 宏泰	加藤 正治
加藤 雅通	加藤 唯	加藤 庸子	加藤 龍寿	金谷 雄生	金桶 陽	神谷 英紀
神谷 美帆	狩浦 一男	川合 尚	河井 丈幸	川崎 恭典	川谷 陽子	河出 恭雅
川本 恵子	河本 博喜	神戸 康秀	完山 秋子	完山 紘平	完山 泰章	岸 竜也
岸川 典明	岸本 知樹	木下 雄一郎	木原 幹洋	金 節子	木村 光利	木村 行宏
金 日成	草場 靖	工藤 淳三	久野 健一	久野 里佳	久保 昭仁	久保田 雅博
黒川 道雄	黒木 玲子	小石 洋和	小泉 直人	小出 詠子	合田 操	幸野 照
河野 宗平	小柴 栄	小島 順司	小杉 将仙	小塚 聡	小天 和也	後藤 淳
後藤 英之	後藤 雄州	後藤 八千代	小西 健一	小林 加奈子	小林 孝彰	小林 徹
小林 博文	小林 史樹	小林 良太	小森 直之	小森 睦美	小山 隆	近藤 忍
近藤 千津子	近藤 瑞枝	佐井 紹徳	齋藤 隆司	齋藤 庸男	齋藤 誠	齋藤 京子
齋藤 照男	西塔 誠幸	才村 弘也	三枝 純一	堺 潤	酒井 有理	榊原 綾子
坂田 充啓	坂巻 隆男	坂本 真理子	坂本 洋子	佐々木 拓次	佐々木 裕茂	佐々木 誠人
佐々木 祐一郎	佐藤 千代香	佐藤 元彦	佐藤 ゆか	佐藤 良幸	實政 裕	佐野 倫生
塩見 利明	篠原 康一	篠原 早紀	柴野 英典	柴山 始久	島田 孝一	嶋吉 敏文
志水 明浩	清水 國樹	清水 宗久	清水口 彩加	心光 世津子	菅村 一敬	杉浦 むつみ
杉本 泰洋	鈴木 幸司	鈴木 伸	鈴木 信吉	鈴木 泰子	住田 香澄	関 忍
千田 憲一	千田 弘子	宗宮 教壹	園田 和生	祖父江 元	高瀬 かね子	高田 勝
高田 麻哉子	高橋 佳子	高橋 進	高橋 孝子	高橋 知生	高橋 史成	高橋 靖弘
高見 昭良	高村 祥子	高柳 友子	高柳 泰世	武居 敦英	武田 秋生	竹田 幸祐
武田 千代子	竹原 俊夫	竹原 成浩	竹本 昌三郎	多湖 千晃	多々内 友美子	田所 久徳
田中 一字	田中 一正	田中 信彦	田中 英成	田中 正彦	田中 元和	田中 元子
田中 元也	田邊 和彦	田邊 直樹	玉田 としこ	塚 晴俊	番井 利恵	塚本 芳春
築山 郁人	月山 啓	對馬 伸晃	津田 信幸	都築 豊徳	都築 史恵	土井 浩史
堂森 丈正	遠山 美智子	富樫 孝	富樫 元	土岐 八雄子	戸谷 信雄	戸塚 伸吉
富田 幸嗣	富田 裕一	富永 二郎	留野 健一郎	内藤 千裕	内藤 宏昌	長尾 喜一郎

中川 洋	中川 喜博	中川 玲子	中迫 博英	中島 隆世	中島 鉄夫	中嶋 博久
中筋 名保恵	永田 浩司	中田 知男	仲谷 宗裕	長縄 三千代	中西 照明	中野 久美
中野 正吾	中村 悟己	中村 尚登	中村 博文	中村 誠	中村 雄太	中村 陽介
中山 貴子	成田 篤彦	成田 憲治	成田 祥子	生川 剛史	西井 裕和	西田 恒紀
西塚 麻代	西村 基	西山 耕	西山 幸男	西脇 晶子	野崎 宗信	野場 万司
萩原 昇	萩原 良治	橋本 英樹	長谷川 恒雄	服部 克久	羽根田 雅巳	馬場 幸男
早川 千代子	林 和子	林 清博	林 宜子	林 秀彦	林 博子	林 基志
林 嘉輝	葉山 国城	原 遠	原田 直明	比嘉 智子	肥後 夏月	樋上 啓子
樋上 泰成	平野 達也	廣岡 聖也	廣川 光之	廣瀬 真仁	廣瀬 善清	廣瀬 善道
深井 健一	深田 大	福井 高幸	福岡 孝泰	福岡 長子	福澤 嘉孝	福智 寿彦
福山 俊彦	藤井 繁樹	藤澤 恵児	藤田 守彦	藤林 孝義	藤本 保志	藤原 祥裕
二神 正文	二村 真秀	古井 景	古岡 邦人	古川 洋志	古田 朋子	細川 好孝
堀田 幸嗣	堀田 昌宏	堀部 博	堀本 恵子	本多 晃	前田 一成	牧野 吉秀
増岡 尚子	榊田 勝仁	間瀬 武則	町田 一枝	町田 智美	町田 竜介	松井 康哲
松尾 高嗣	松岡 哲平	松川 景	松平 早苗	松平 仁	松原 史朗	松本 拓也
松本 芳子	松山 英里子	松山 華奈美	三浦 久美子	三嶋 廣繁	三嶋 由充子	水谷 正子
水野 昌平	水野 真理	水本 強一	三岡 裕貴	水上 葉子	箕浦 恵	宮下 直人
宮地 茂	宮本 知	三輪 一真	村上 恒久	村松 忠	森 隆史	森 俊彰
森 泰男	森内 幹	森川 彰子	森川 晋吾	森田 絵万	森永 敏文	森永 ゆい子
諸隈 琢	安井 修	安井 幸藏	矢田 雄滋	柳 利男	柳澤 和裕	柳原 崇
矢野 浩一郎	矢野 智紀	山尾 令	山川 ありさ	山川 日出雄	山口 孝太郎	山口 力
山崎 節正	山田 大介	山田 敏子	山田 徳行	山田 晴生	山田 昌樹	山田 佳史
山中 寛紀	山本 順一郎	山本 千廣	山本 秀明	山本 祐歌	山本 美子	山森 孝彦
梁 裕昭	弓倉 宏志	横井 喜代子	横内 定明	吉江 康二	吉田 一光	若杉 里実
若槻 明彦	若林 夏樹	脇田 慎司	早稲田 勝久	渡邊 栄三	渡辺 敬子	渡邊 大輔
渡辺 貴昭	渡邊 寿則	渡邊 一司	渡邊 人啓	渡邊 慎	渡會 恒久	

匿名 216件 (五十音順)

<法人・団体>

医療法人相生会稲川耳鼻咽喉科	一般財団法人愛知医科大学愛恵会	愛知医科大学医学部後援会
愛知医科大学看護学部同窓会	愛知医科大学看護学部父母会	一般社団法人愛知医科大学同窓会
愛知医大サービス株式会社	あいち尾東農業協同組合	医療法人あおい皮フ科クリニック
朝日機器株式会社	株式会社梓設計	安藤建設株式会社
医療法人社団生き生き会	医療法人社団石塚内科医院	医療法人H&H
株式会社エバ	株式会社エフエスナゴヤ	オオサキメディカル株式会社
株式会社オーテック環境システム事業部中部支店	株式会社大林組名古屋支店	株式会社オカムラ
株式会社カーク	掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター	鹿島建設株式会社中部支店
鹿島建物総合管理株式会社中部支社	川重冷熱工業株式会社	医療法人社団喜峰会東海記念病院
医療法人社団京愛会	株式会社きんでん中部支社	医療法人久和会
医療法人櫻の森	けんこう長寿株式会社	医療法人健美会
株式会社コアズ	医療法人絃心会	医療法人幸信会とみやす整形外科クリニック
医療法人香徳会	国際ロータリー第2760地区WFF実行委員会	株式会社サーティーフォー
医療法人幸会	医療法人社団さかいファミリークリニック	株式会社桜木不動産コンサルタント
三機工業株式会社中部支社	三友電子株式会社	シーアンドエス株式会社
株式会社シーエナジー	有限会社シーメディックス	医療法人篠崎医院
株式会社篠田商会	医療法人社団洵和会	医療法人湘山会眼科三宅病院
医療法人勝心会芳賀クリニック	医療法人如水会	医療法人如水会鈴鹿腎クリニック
有限会社シルバーホームほのぼの	医療法人社団新成会石田眼科	医療法人社団崇仁会船戸クリニック
医療法人スズムラ眼科医院	医療法人すまいる皮フ科クリニック	星光ビル管理株式会社
積水メディカル株式会社	瀬戸信用金庫	株式会社セレスポ名古屋支店
医療法人創喜会	株式会社ソラスト名古屋支店	タイガー総業株式会社

医療法人社団泰成会
株式会社タスクフォース名古屋支店
TMES株式会社
医療法人東海眼科
株式会社トーエネック
株式会社トラム
株式会社ナカシマ
株式会社名古屋銀行
株式会社ニチイ学館
一般社団法人日本造血細胞移植データセンター
株式会社馬場器械店
医療法人福智会
不二印刷工業株式会社
株式会社堀場測量設計
医療法人美衣会衣ヶ原病院
ミヤリサン製薬株式会社
医療法人明眼会西垣眼科医院
医療法人もみじ会田崎医院
株式会社山岸設備
株式会社ライス加納
医療法人る・おてい・らぱん

医療法人社団大誠会
株式会社田中葬具店
寺脇産業株式会社
株式会社東海メディカルプロダクツ
トーテックビジネスサポート株式会社
医療法人長尾会・ねや川サナトリウム
中日本航空株式会社
ナゴヤホコンファシリティーズ株式会社
日本空調サービス株式会社
株式会社鹿萬
日の出衛生保繕株式会社
医療法人福智会すずかけクリニック
富士産業株式会社
株式会社マイナビ
三菱HCキャピタル株式会社中部第一営業部
医療法人睦会福井眼科
名鉄バス株式会社
医療法人社団八洲会袋井みつかわ病院
株式会社山下設計
理科研株式会社
医療法人和光会

社会医療法人大雄会
中部連合読売会
電子システム株式会社
東京音楽工業株式会社
豊田信用金庫
中尾産業株式会社
株式会社名古屋医理科商会
医療法人にのみ歯科医院
日本建築検査機構株式会社
ネットワンシステムズ株式会社
医療法人平竹クリニック
医療法人福友会
医療法人ふれあい会
三浦工業株式会社春日井支店
三菱電機ビルソリューションズ株式会社中部支社
村角工業株式会社
株式会社メック
株式会社山菊
医療法人行橋クリニック
株式会社リイツメディカル
ワタキューセイモア株式会社

匿名 28件 (五十音順)

寄附申込みに当たりご芳名の掲載を許諾いただいた方のみ掲載しています。

創立50周年記念事業募金寄附者ご芳名は、愛知医科大学ホームページ（創立50周年記念事業募金）においても掲載しています。

令和6年度採用事務職員内定式挙行

令和5年10月2日（月）午後3時から大学本館701会議室において、令和6年度採用事務職員内定式が挙行されました。

式では、内定者7名に内定証書が授与された後、島田孝一法人本部長から「本学は高度救命救急センターに指定されており、救急医療に注力しています。それだけではなく、がん医療の推進やリハビリテーション医療の充実を図るなど、未来に向けたプランを具体的に備えた大学・病院を目指しています。それらが軌道に乗るかどうかは、情報の整理から財源の確保、各種手続きや進行管理などを実際に行う、事務職員の働きにかかっています。皆さんが入職された際には、自分ができることに責任を持ち全力で



内定者と記念撮影

取り組んでください。来年の4月に、万全の状態の皆さんに再会できることを待っています。」とあいさつがあり、午後3時45分頃に式は終了しました。

役員・評議員の異動

【評議員】

退任 安川 龍也（令和5年9月30日付）
就任 山田 晴生（任期：令和5年10月1日～令和7年1月27日）

令和5年度総合防災訓練実施

愛知医科大学消防計画・大規模災害対策マニュアル及び愛知医科大学病院事業継続計画に基づき、令和5年10月19日（木）に教職員、学生合わせて約1,000人規模の総合防災訓練が行われました。新型コロナウイルス感染症対策のため実施を見合わせていた時期もありましたが、今回からコロナ禍以前と同様の実地訓練となりました。

今回の訓練は、南海トラフ地震でマグニチュード9.0、震源地は熊野灘沖フィリピン海プレート、南海トラフとして、長久手市で震度6強の地震を観測、病院機能は一部麻痺しているものの、患者受け入れは行うことを想定し実施されました。訓練内容については、大学、病院、法人本部と三部門に分けて行われました。

大学部門では、学生避難誘導訓練や尾三消防本部の協力による消防隊員の指導で、水消火器を使用した消火訓練、応急処置訓練などの体験型の訓練、医療用コンテナの視察や「学生が知っておくべき災害医療」等の防災講義が行われました。

病院部門では、事業継続計画（BCP）に基づき、被災状況報告書（第一次、第二次）による確認訓練が行われました。また、自身の安全報告、トリアージ訓練、緊急時や夜間時の検査が可能かどうかなど、災害時の対応について確認しました。

法人本部部門では、ライフラインの被害状況調査報告や、災害備蓄品搬送の訓練等が行われました。更に、非常用設備等の視察を行い、非常用浄水装置の稼働状況等を確認し、実際に浄水を試飲するなど、設備の重要性を再認識しました。

本部の検証会では、各部門から活発に意見が交わされ、新たな課題も見つかりました。今般、大きな気象災害での被害がしばしば報道されていることもあり、防災の危機意識が教職員のみならず、学生にも十分高まってきています。この訓練を終え、今後もより教職員及び学生が防災の重要性を認識し、より実りある防災訓練を行っていきます。



医療用コンテナを視察する学生たち



病院で行われたトリアージ訓練の様子

訃報

小川 徳雄名誉教授 御逝去



令和5年9月3日(日)に小川徳雄名誉教授(生理学第2講座)がご逝去されました。享年95歳でした。

小川先生は昭和28年3月に名古屋大学医学部を卒業し、昭和48年7月に愛知医科大学医学部生理学第2講座の初代教授として就任されました。

本学大学院創設への尽力及びその運営への貢献を始め、昭和63年から4年間にわたり初代研究機器センター長として同センターの創立に尽力され、本学の学術研究の振興に大きく寄与されるとともに、附属図書館長、教務部長、医学教育改善専門委員会委員長としても医学教育の向上に努められ、本学の発展に多大に貢献されました。また、研究科委員会運営委員会委員長、総務委員会委員のほか多数の各種委員会委員を務められるとともに

に、本学の理事、評議員にも就任され、学校法人の運営にも大きく貢献されました。

なお、先生は、一貫して生理学の体温調節・環境生理の分野における研究に努力を傾注し、特に発汗生理学の分野で数々の業績をあげ、発汗生理学を新しい流れにおいて集大成し、発汗生理学の世界的権威として教育・研究の進歩に大きく寄与されました。

更に、日本生理学会、日本自律神経学会、日本体力医学会などの評議員、日本宇宙航空環境医学会、日本生理人類学会などの理事、日本生気象学会幹事として尽力され、我が国のみならず世界における温熱生理学の向上発展に多大な貢献をされました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

川出 富貴子名誉教授 御逝去



令和5年9月22日(金)に川出富貴子名誉教授(小児看護学)がご逝去されました。享年91歳でした。

川出先生は昭和31年3月に高知女子大学家政学部衛生看護学科を卒業し、平成13年6月に愛知医科大学看護学部小児看護学の初代教授に就任されました。

平成14年から2年間にわたり教務学生部長を務められ、看護学教育の向上に寄与されるとともに、平成15年から大学院看護学研究科設置準備委員として同研究科の創設に尽力され、同研究科設置後は小児看護学領域の大学院教授としてその運営発展に大きく貢献されました。

また、先生は長きにわたり看護学教育のテキストとして活用された臨床看護便覧、小児看護学I・IIの出版・改訂を担当され、更に、厚生労働省や県主催による看護教員講習会の講師、日本看護協会主催による看護研修会、臨床指導者研修会等の講師を務め、看護学教育の発展に大きく寄与されました。加えて、日本小児研究学会の発起人・評議員・監事・査読委員、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護医療学会等の評議員・査読委員として尽力され、我が国における看護学教育・研究の向上発展に多大な貢献をされました。

ここに哀悼の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

愛知県から新型コロナウイルス感染症対策における協力団体等への感謝状贈呈

令和5年10月22日（日）に愛知県の新型コロナウイルス感染症対策に多大な貢献をした個人・団体・事業者として、本学が「新型コロナウイルス感染症対策における協力団体等への感謝状」【写真】を贈呈されました。

今回は、対策本部の運営に貢献した団体やワクチン接種を実施した団体など、各種方面で貢献した県内における約500団体が受賞対象であり、その中で「学校法人愛知医科大学」、「愛知医科大学病院」、「愛知医科大学メディカルセンター」、「愛知医科大学眼科クリニックMiRAI」が選定されました。

新型コロナウイルス感染症対策において愛知県からの協力依頼を始め、大規模接種会場の運営など、本学が複数分野にわたり大きな役割を担ってきたこ



とを改めて実感するとともに、今後も、国や地域のニーズ及び変革に対し柔軟に対応するべく、法人一丸となり責務を果たして参ります。

表彰対象分野	本学対象
対策本部の運営等に貢献した団体等	愛知医科大学病院
医療提供体制の確保に貢献した団体等	学校法人愛知医科大学, 愛知医科大学病院
検査の実施に貢献した団体等	学校法人愛知医科大学
ワクチン接種の実施に貢献した団体等	愛知医科大学病院, 愛知医科大学メディカルセンター, 愛知医科大学眼科クリニックMiRAI
外来対応医療機関(診療・検査医療機関)	愛知医科大学メディカルセンター, 愛知医科大学メディカルクリニック (現: 愛知医科大学眼科クリニックMiRAI)

令和5年度愛知医科大学公開講座終了

令和5年9月16日（土）、23日（土・祝）及び30日（土）の計3回にわたり開催された令和5年度愛知医科大学公開講座が終了しました。

本年度の公開講座は、総合テーマを「知ってお得なこれからの医療」として開催し、開催期間中には、近隣住民の方を始め、3日間で延べ430名の方々にご参加いただきました。

なお、当日の講演内容をご視聴いただけるように大学ホームページに動画を公開致しましたので、是非ご覧ください。

これからも本学では、地域の方々の健康に役立つ公開講座を企画・運営していきますので、多くの方



公開講座の様子

のご参加をお待ちしております。

愛知医科大学公式SNS運用開始 及びSNSリテラシー講習会開催

本学では、ホームページや広報誌等を活用した広報活動に加え、新たな情報発信ツールとしてSNSを導入することとなり、令和5年9月19日（火）から愛知医科大学公式SNS(X(旧Twitter)及びInstagram)の運用が開始されることとなりました。近年では受験者層である10代を中心にSNSの利用者数が増加しており、公式SNSを開始することによって、一層本学における広報活動の活性化が期待されます。

SNSを投稿するに当たっては、基本的な知識を身に付け、リスクマネジメントを理解していることが重要です。そのため運用開始に先立ち、8月22日（火）午後1時30分から大学本館マルチメディア教室において、SNS投稿に関わる方を対象としたSNSリテラシー講習会が開催されました。

講習会では、株式会社CBCコミュニケーションズの都田課長を講師にお招きし、SNSの概要や昨今10代から50代までの世代別に聞き取りをしたSNSの利用状況について説明していただきました。また、



年々増加傾向にある不適切な内容の投稿による炎上についても実例を交えて説明していただきました。

本学では、今後SNSを活用して大学・病院・メディカルセンター・眼科クリニックMiRAIのタイムリーな情報を日々発信し、より魅力のある大学及び病院のイメージ形成に努めて参ります。是非、本学公式SNSをご確認ください。

科研費獲得支援セミナー及び 申請に関する事務説明の実施

令和5年8月8日（火）午後5時から、科研費獲得支援セミナーと題して、科学研究費助成事業（科研費）への申請予定者に対するセミナーがビデオ会議ツール「Zoom」を用いて行われ、129名の参加がありました。

今年度は、学内の科研費採択実績のある研究者である病理学講座の伊藤秀明講師、内科学講座（血液内科）の水野昌平准教授、糖尿病内科の森下啓明講師に科研費申請・採択を目指すための留意点やポイント等を解説していただきました。また、セミナー

後には総務部研究支援課の加藤広悟主任から、科研費の申請方法や事務的な注意点についての説明が行われ、多くの研究者から質問が寄せられるなど、有意義なものとなりました。

なお、当日に参加することができなかった研究者に対しては、講義を録画したDVDの貸出しを行うことで多くの研究者等に聴講されました。

今後も、研究活動の一層の活性化と科研費を始めとする競争的資金の獲得を推進していきます。

令和5年度愛知医科大学SDへの取り組み

本学では、「SD（スタッフディベロップメント）：教職員に研修の機会を提供する等の取り組み」を積極的に行っております。

目標管理評価者研修実施

令和5年8月28日（月）大学本館たちばなホールにおいて、午前・午後の二部制で目標管理評価者研修が実施されました。午前の部は評価初心者や基礎を再度確認したい方向けに、午後の部は評価経験者や評価に悩みがある方向けの内容として実施され、併せて49名（内、メディカルセンターでのZoom受講者12名）の管理職が参加しました。

今回の研修では、人事評価の意義は「組織目標実現のために人的資源の価値を上げること」という前提を確認した上で、評価の手順や面談のフローについて学習しました。昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止に留意し、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、出席者間で評価結果の共有を行うペアワークを実践し、新しい評価の視点を学びました。講師からは、評価時に陥りやすい考え方や、面談での効果的な声かけの仕方、フィードバックの重要性について具体例が提示され、被評価者から納得感を得るための評価方法を学びました。



ペアワークに取り組む参加者

受講者アンケートでは、「目標設定・評価等について、被評価者と日頃からのコミュニケーションや意見を交わすことによって効果的な目標設定及び公正な評価ができるように努めたい。」「スタッフとともに風通しの良い部署を目指し、部署の目標もスタッフと一緒に取り組んで達成できるようにしたい。」などの感想がありました。

産業医講演会開催

令和5年10月5日（木）午後4時から大学本館たちばなホールにおいて、「働き方改革は休み方改革～個人、チームの力を引き出す職場とは？～」というテーマで産業医講演会が開催されました。なお、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、出席者の人数制限を設けることに加え、事前に講演会後に動画配信があることを周知の上、開催されました。

講演会では、本学の産業医である衛生学講座の鈴木孝太教授に、働き方改革を進めていくための職場の風土づくりや健康な働き方について、具体的事例や関連書籍の紹介などを交えながらご説明いただきました。

研修会後のアンケートでは、「全職員が必須として拝聴すべき内容だった。」「紹介された本に興味を湧いたため、ぜひ読んでみたい。」「労働者の健康促進やコミュニケーションは実践してみたいと思う。」など、これまでに引き続き、好意的な意見がありました。また、「産



講演を行う鈴木教授

業医お薦め本」の展示が、令和6年3月末頃まで総合学術情報センター（図書館）で行われています。講演会で紹介された書籍も展示に含まれており、学生だけでなく職員の間にも集めています。

今後も引き続き産業医講演会を開催し、教職員のメンタルヘルスの理解へ繋げていく予定です。

昇任者研修（主任・主査研修）実施

令和5年10月18日（水）午後1時30分から大学本館701会議室において、事務職員を対象とした昇任者研修が実施され、20名（内、メディカルセンターでのZoom受講者6名）の事務職員が参加しました。本研修は「安定力・思考力・指導力を身に付ける」をテーマに、前年度以前を含む主任・主査に昇任した職員の受講希望者を対象として実施されました。

本研修では、受講者を4～5人の四つのグループに分け、講義及び個人・グループワークの形式で問題解決について学び、意見共有が行われました。

受講者からは、「課内でのコミュニケーションの取り方や仕事の進め方など、本日学んだことを考えながら業務に取り組みたい。」「自分を見つめ直す良い機会だ



グループワークの様子

と思った。」「日頃の仕事に対する振り返りもできて、有意義な時間となった。」などの感想がありました。

令和5年度大学コンソーシアムせとカレッジ講座開催

令和5年10月7日（土）に、瀬戸市のパルティセと4階マルチメディアルームにおいて、本学看護学部看護実践研究センター地域連携・支援部門の横山剛志講師及び河井丈幸助教が講師となり、大学コンソーシアムせとカレッジ講座「人生100年、はじめてみよう！フレイル予防！！～飲んで（お口）、出す（排尿）という生活の中での実践～」が開催されました。

人は日頃、何気なく飲んで（お口）、出して（排尿）しますが、食べて出すことは高齢者の自立を損ねるフレイルと密接に関係しています。講座では、「お口のフレイル」と「おしっこフレイル」についての解説と、その予防や改善の実践について2部構成で説明が行われました。

今回は市民46名が参加し、参加者からは「お口と排尿両方の講座は今までになかったので大変参考に



横山講師による講座の様子

になりました。」「健康と病気に関する講座を毎年実施してほしいです。」などの感想が寄せられ、盛況のうちに幕を閉じました。

今後も、看護実践研究センター地域連携・支援部門では、大学コンソーシアムせとにおいて、地域住民の皆さまのニーズに即した講座を企画していく予定です。

教授就任インタビュー



薬理学講座・教授

まるやま けんた
丸山 健太

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

私は、骨粗鬆症・敗血症・痛みを「老年医療の3大課題」と位置付け、遺伝学を駆使することで当該課題の克服を目指した医学を展開しています。

学部生の頃に偶然、破骨細胞分化誘導因子の持つ強力な敗血症予防効果を発見したことが、科学へのめり込むきっかけとなりました。大学卒業後は老年内科診療に従事する傍ら、骨代謝系と自然免疫系を同時に制御する因子を同定するための研究に着手し、破骨細胞と好中球に発現するJdp2が両細胞系譜の成熟に必須であること、NF- κ Bを抑制するSbno2が破骨細胞の融合に重要であることを見出しました。10年前からは感覚系と骨免疫系のクロストーク探究に着手し、痛覚神経が真菌性骨髄炎を抑制していることを報告したほか、真菌感染随伴疼痛の発生機序を明らかにしてきました。最近では、機械刺激受容体のPiezo1が糞便中の核酸を認識して骨と腸の恒常性を調節していることを見出したほか、敗血症の際に痛覚神経が脳を保護する液性因子を放出することで敗血症死を防いでいることを報告しました。一連の成果は感覚系と骨免疫系が多様な分子を共有しながら相互作用していることを意味しており、生理学と免疫学を融合させた「感覚免疫学」の提唱に至っています。

当該領域を発展させることで、これまででない鎮痛薬や免疫調節医薬の開発に資する知見が得られるのではないかと期待しています。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

自己と非自己の問題を扱う免疫学は本質的な学問ですが、主要な命題の多くは既に解かれており、一人の学者が要素還元的な手法を用いてよい仕事をするのが困難な状況に陥っています。生理学も免疫学と同じくとても成熟した学問ですが、臓器連関という視点を持てば免疫学よりは夢を持てるかもしれないと思い、「感覚免疫学」を始めました。

異分野融合で新しいフレームが生まれると昔からよく言われますが、その程度のことで科学にブレークスルーがもたらされることはありません。真の学問は、牧歌的かつ単純で類をみないものでなければなりません。「分野」などというものに拘泥してはいけないと、日々自戒しているところです。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

科学者と同様に医者も、閃いてくるものを詳細に分析して統合することが求められます。一見、かけはなれたように見えるものの中に類似性を見つけだし、それらを関連付けること。それだけでなく、日常診療の中で湧き上がるストレートな疑問に美しく答えるための方法論を常に考えること。そして、何より一番大切なのは、閃いたものの中から何を除けておき、何を捨てるのかを即断即決することではないでしょうか。しかし、こうした努力を積み重ねても、私たちは一人残らず全員が確実に死を迎えます。死のない世界と死について思考することを放棄した世界はディストピアです。死の授業は医学校のカリキュラムにありませんが、死について一人で一生懸命自分なりに考えた人は、良い医者になれます。



公衆衛生学講座・教授

ひしだ あさひ
菱田 朝陽

— 教授就任に当たっての
抱負を聞かせてください。—

初めまして。令和5年10月1日付で公衆衛生学講座の教授に着任しました菱田と申します。平成10年に名古屋大学を卒業後8年間、内科医（循環器・血液）として臨床・研究を行った後、研究に軸足を移し、ヒトの遺伝的体質に基づく効果的な予防法を見つけ出す分野であるゲノム疫学の全国的な大規模コホート研究である、日本多施設共同コホート研究（J-MICC Study）の中央事務局業務に携わりつつ、データ解析・論文執筆を行ってきました。また、同研究の1コホートである伊賀地区（三重県伊賀市）において、診療業務にも携わりつつ、主にがん臨床に関する臨床解析支援も行ってきました。

近年がんの分子標的療法などの先進医療は目覚ましい進歩を遂げていますが、一方で、現在わが国は世界的にも稀にみるレベルの超高齢社会を既に迎えており、高齢者医療におけるプライマリケアの充実が重要な公衆衛生的課題となっています。私はこの愛知医科大学で与えられたチャンスを活かし、ゲノム疫学の社会への還元と、地域の高齢者医療に役立つような教育・研究活動を公衆衛生学者の立場から展開していきたいと考えております。

— 現在の研究分野に進まれた
きっかけを教えてください。—

私は元々内科医でしたが、大学院入学時に血液内科の臨床データ（造血幹細胞移植データ）の解析研究のお誘いを受け、平成13年に愛知県がんセンター研究所・疫学予防部にお世話になったのが研究者人

生のスタートでした。学生時代から英語が得意（好き）で、そのお蔭で1年間に8本の英語論文が受理され、周囲から能力を認められ、自分に向いているのではないかと思います、研究のコースに専念することになりました。

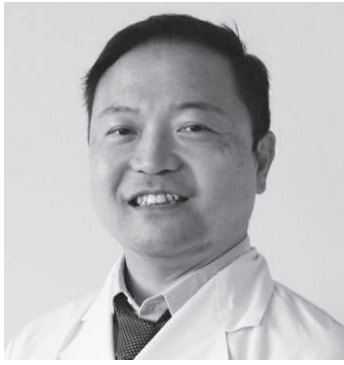
研究の道に入ってから、東京大学医科学研究所へポスドクとして1年間の国内留学、アメリカ・ノースカロライナ大学の公衆衛生大学院へ2年間の留学を経験し、国内外のトップレベルの研究者たちと知り合いになり、多くの共同研究を行うことができました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

皆さんは、私たちの学生時代に比べると、世界的にも稀な超高齢社会という厳しい現実と直面している一方で、PubMedや各種医療・医学分野のデータベースから世界中のあらゆる情報を得られるという大変便利な時代に医学生時代を送れるという、ある意味、羨ましい状況にいるように思います。これからの社会の医療への期待とニーズに応えられるよう、地域における公衆衛生上の問題点を正確に捉えつつも、国内外のトップレベルの医療者・医学研究者とも交流できるリサーチマインドを持った医師がこの愛知医科大学から一人でも多く輩出されることを願っております。



シアトル・フレッドハッチンソンがんセンターにて
(左から2人目が菱田教授)



精神科学講座・教授

みやた じゅん
宮田 淳

— 教授就任に当たっての 抱負を聞かせてください。—

令和5年10月1日付で、精神科学講座の教授を拝命しました。本講座は、昭和47年の本学開校と同時に西丸四方教授が初代教授として就任されました。その後、大原貢教授、林拓二教授、兼本浩祐教授と引き継がれ、私で五代目となります。

西丸教授は、カール・ヤスパースの「精神病理学原論」などの翻訳で広く知られる、わが国の精神病理学を代表する方です。大原教授はてんかん・心理療法で知られます。林教授は非定型精神病のCTを用いた脳画像研究という、先駆的な研究をされました。そして、兼本教授はてんかん診療のバイブルである「てんかん学ハンドブック」を執筆された、てんかん診療・研究の第一人者です。

このような愛知科大学の幅広い伝統に、私の専門とする妄想・統合失調症の認知神経基盤研究及び診療を加えることで、更に講座を発展させて行きたいと思えます。

— 現在の研究分野に進まれた きっかけを教えてください。—

私は精神科の専門研修をしている間に、妄想症(妄想性障害)の患者さんを担当しました。妄想とは「誤って形成された、強く確信された、訂正が困難な信念」のことで、妄想症はこの妄想以外には明らかな症状がなく、患者さんは一見、全く健康に見えます。「ちゃんと話せば妄想だと分かってくれそう」と感じさせるのに、話してみると妄想への確信は強固で全く訂正できないことに、強い衝撃を受けました。そして、妄想のメカニズムの解明、効果的な治療法の開発を志し、大学院に進学しました。丁度MRIを用いた灰白質、白質、脳活動の測定・解析技術が開発され始めた頃で、それらを用いた研究を行って参りました。

— 学生へのメッセージをお願いします。—

私は、学生さん達に講義をする際、いつも「授業と講義は違う」という話をします。小・中・高と皆さんが受けてきたのは授業で、英語ではlesson, classです。これは評価の定まった確実な知識を、大人が子供に教えるという、一方的な構図です。対して、大学以降では講義(lecture)です。これは専門的・最新で不確実なことがしばしばあることを伝えます。また、教員は学生より先に始めた「先輩」で、大人と大人、同じ立場です。そのため、教員の言うことを無批判に受け入れず、疑問に思った場合どんどん質問してください。

初学者の根本的な質問は、しばしばCriticalで、教員としても助かります。日常生活の中でも、ふと感じた疑問を大事にしてください。皆さんが臨床あるいは研究に進んだとしても、そのようなちょっとした違和感や疑問から解決に至ることもあります。

痛み医療開発寄附講座 発足記念講演会開催

令和5年8月21日（月）午後6時から大学本館たちばなホールにおいて、痛み医療開発寄附講座の発足記念講演会が開催されました。令和5年6月1日付けで医学部に新設された本寄附講座の概要、設置目的、教育・研究等基本方針・抱負などに関する情報を学内外に広く周知することを目的とし、記念講演会という形式での開催となりました。

本講演会の開始に先立ち、東京ヴィジュアルディ合奏団の渡部宏氏にチェロを演奏していただき、会に花を添えていただきました。祖父江元 理事長からのごあいさつに続き、慢性痛、天気痛治療の研究及び普及を行う佐藤純客員教授に天気痛と実態のメカニズムについてご講演いただきました。

本寄附講座の福井聖教授からは「新しい疼痛医療の未来」というタイトルで、講座の趣旨について、慢性痛予防のための医療・介護ロボット開発、パルス高周波治療で周波数を組み合わせることによる針を刺さないプライマリケアでの医療機器開発、難治性疼痛に対する電気や磁気によるニューロデュレーション振動医療、医療機器開発、痛みの見える化として在宅で測定可能な携帯脳波計の開発、Doctor to Doctorの遠隔医療支援などについてご説明いただきました。本寄附講座では、これまでそれぞれの



講座の説明を行う福井教授



渡部氏によるチェロ演奏の様子

研究者及び企業が点でバラバラに行っていたものを線で繋いでいくことで、痛みをもった人間をトータルに診ていけるようなクリエーションの実施を目指します。

閉会に当たり、笠井謙次医学部長及び疼痛医学講座の牛田享宏教授からごあいさつをいただき、盛況のうちに本講演会は終了致しました。平日でご多用の中、ご参加いただいた多数の医療関係者の方々や準備等ご協力いただいた方々に感謝致します。

学生相談室の相談体制拡充

学生相談室では、学生からの相談体制の拡充を図るべく、令和5年9月から学生相談員（臨床心理士・公認心理師）を増員し、平日の授業終了後には相談員が毎日常駐するようになりました。

また、9月5日（火）からは、新たに「ランチアワー」を開始し、学生の皆さんが気軽に利用できる環境が整備されました。青年期は悩みや課題を抱える時期ですが、充実したキャンパスライフを送れるよう、引き続き支援して参ります。

学生相談室
「ランチアワー」
毎週火曜日・水曜日
12:10～13:30
+ 火曜日担当：古井由美子（学生相談員・臨床心理士）
+ 水曜日担当：渡部 宏（心理学専攻・臨床心理士）
R5年9月5日から開室！
「自分のことが分からない」「もっと休みたい」「頑張らなきゃ」「友人や先輩が自分よりずっと進んでいる」「どこかに行きたい」など、色々な悩みや課題を抱えている学生さん、お気軽にご相談ください。
//なお、今までの相談室（15:30～18:30）の学生相談も、9月5日から月曜日～金曜日まで毎日担当が在室しています。
R5年9月5日の授業終了後（18:30）から開始します。
下記のとおり各キャンパスに相談員が常駐します。
+ 学生相談室：gssouden@uichi-m.ac.jp
+ 学生相談室：gssouden@uichi-m.ac.jp
↑学生相談室のホームページはこちら、詳しくはこちらをご覧ください！
https://ammail.sharepoint.com/sites/gssouden1
場所：2号館（新理科学館）2階

看護学教育評価における実地調査実施

令和5年10月6日（金）午前9時から午後4時までに亘り、7号館（医心館）多目的ホール1～3を会場として、看護学教育評価の実地調査が行われました。

この看護学教育評価は、一般財団法人日本看護学教育評価機構が、看護学教育の質の保証・向上を目指す考えの基、看護学分野の特性を踏まえて実施している分野別評価であり、令和2年度から開始されたものです。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、これまでオンラインでの実施が主流でしたが、本学では対面形式で行われました。

当日は、祖父江元 学長、坂本真理子看護学部長、若杉里実教務学生部長、泉雅之看護学部長補佐を始

めとした、看護学部の各種委員会委員長及び関係事務職員が出席し、学生や若手教員との面談や施設見学・授業参観に加えて、大学関係者との意見交換が行われました。

実地調査は、令和5年5月に提出した自己点検・評価報告書及び根拠資料等や、その後に提示された受審校への質問に対する回答書を基に実施され、その結果を踏まえ、評価報告書が12月下旬に提示される予定となっています。

看護学部では、この看護学教育評価受審をきっかけとし、教育研究活動の充実と発展を目指して、これからも邁進していきます。

令和6年度大学院医学研究科入学試験 第79回論文博士外国語試験実施

令和5年10月6日（金）本学本館711特別講義室において、大学院医学研究科入学試験第1次募集及び第79回論文博士外国語試験が行われました。合格者数は、大学院医学研究科入学試験が7名、論文博士外国語試験が4名となりました。

大学院医学研究科においては、入学定員に満たないことから、第2次募集を予定しています。これま

で社会人入学制度や学納金減免制度の拡充などを行い、大学院教育を受けやすい環境を整えてきましたので、研究意欲の高い方が多数応募されることを期待しています。

なお、大学院医学研究科入学試験第2次募集及び第80回論文博士外国語試験は、令和6年2月2日（金）に実施予定です。

令和6年度大学院看護学研究科入学試験実施

令和5年9月6日（水）に令和6年度大学院看護学研究科入学試験が行われました。合格者は、修士論文コースが6名、高度実践看護師（専門看護師[CNS]）コースが1名、高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースが8名となり、入学定員を満たしたため、第2次募集は実施致しません。

本研究科では、これまで医療等の現場で活躍され

ている方々が、退職したり休職したりすることなく学べるよう、平日の夜間や土曜日などにも講義、研究指導を行っています。更に、勤務や育児などの事情により標準修業年限での履修が困難な学生を対象とした「長期履修制度」を導入し、社会人がより学びやすい教育環境を整えています。（高度実践看護師（診療看護師[NP]）コースを除く。）

令和5年度臨床実習前OSCE実施

令和5年9月2日（土）、3日（日）に医学部4学年次生を対象とした臨床実習前OSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）が実施されました。

臨床実習前OSCEは、臨床実習における医学生として適切な知識と技能・態度を有しているかどうかを評価する試験です。今年度から公的化試験となり、合否判定基準などが全国统一基準で実施されました。この試験に合格していることが、臨床実習に進むに当たり必要になるだけでなく、医師国家試験を受験する際の要件にもなっています。本学は、①「医療面接」②「全身の状態とバイタルサインの測定」③「頭頸部診察」④「胸部診察」⑤「腹部診察」⑥

「神経診察」⑦「基本的臨床手技（一般手技・検査手技）」⑧「救急」の他に、⑨「四肢と脊柱の診察」⑩「感染対策」を加えて、全10課題を実施しました。

試験の公的化初年度ということもあり、受験する学生のみならず、運営する教職員も例年とは異なる緊張感の中で試験が実施されました。多くの皆さまにご協力いただき、大きな問題もなく2日間を無事終えることができました。今後は、一部の教員に評価者としての負担がかかりすぎないように、新たな認定評価者の養成が急務となります。各講座におかれましては、引き続き、ご協力の程よろしくお願い致します。

2023年度医学部白衣式挙行

令和5年10月14日（土）午後2時から大学本館たちばなホールにおいて、2023年度医学部白衣式が、新型コロナウイルス感染症感染予防策を講じた上で挙行されました。

白衣式では、共用試験（CBT, Pre-CC OSCE）に合格し、臨床実習への参加が認められた医学部4学年次生に対して「Clinical Clerkship Student」の称号が授与されました。学生は新しい実習衣を身に付け白衣式に臨みました。

初めに、笠井謙次医学部長から、臨床実習に臨む者としての心構えについて話があり、代表者へClinical Clerkship Student証書が授与されました。引き続き、鈴木耕次郎教務部長始め、4名の臨床医学系教授から学生一人ひとりにClinical Clerkship Student証書とワッペンが授与されました。

次いで、祖父江元 学長、道勇学病院長、井上里恵看護部長から祝辞があり、愛知医科大学同窓会愛橋会の福澤嘉孝理事長、昨年度に本学を卒業し研修医1年目の水落麻由医師からも激励の言葉がありま



学生宣誓文を読み上げる柴田さん

した。最後に、4学年次生代表の柴田真友子さんが学生宣誓文を読み上げました。この宣誓文は、これから臨床実習に臨むに当たっての心構えなどを学生全員で話し合っって作成したものであり、自分たちで考え、言葉にすることで、自らの臨床実習への意識付けや行動規範とするものです。

前年度に引き続き、当日は新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底し、事前申込制での保護者の参列と参列いただけなかった方々向けにYouTubeを利用したライブ配信が実施され、式の様子をお伝えしました。

実習指導に関する看護学部FD実施

令和5年8月22日（火）午後3時から7号館（医心館）多目的ホールにおいて、看護学部の教員及び本院看護部の臨地実習指導担当者総勢72名で、実習指導に関するファカルティ・ディベロップメント（FD）が実施されました。「実習指導者と教員との連携～実習中の日々の連携について考える～」をテーマとし、日頃の学生への実習指導について、実習目標達成に向けた情報共有の工夫や、実際の連携で困ったこと、お互いの要望等についてグループワークが行われました。このような対面での活発な意見交換は、お互いの顔が見える関係づくりに繋がります。

参加者からは、「普段の思いを伝えることができる良い機会であった。」「指導担当者の方々が、どのようなことに困っているのかが分かり、対応を考



グループワークの様子

えるきっかけとなった。」等の意見があり、大変好評でした。

今後も、教員と実習指導担当者間でのFDを継続的に実施し、より良い実習指導体制の構築を目指します。

看護学部体験講義開催

令和5年8月2日（水）午後1時30分から看護学部棟N201講義室において、看護学部体験講義が開催され、愛知県立天白高等学校から高校生9名（1～3年生）及び教員1名が来学しました。

当日は、坂本真理子看護学部長からのあいさつ後、広報委員長である公衆衛生看護学の若杉里実教授から学部紹介があり、成人看護学の佐藤ゆかり講師からは「専門職としての看護の魅力」をテーマとした模擬講義が行われました。講義では、看護の仕事について説明があり、呼吸音について正常な音と手術後の音の違い、実際に聴診器やパルスオキシメーターを使用した自身や参加者同士による呼吸音の聴取、酸素飽和度の測定など様々な体験が行われました。その後、ドクターヘリを見学し、高校生の皆さんは間近で見るドクターヘリの迫力に圧倒されているようでした。

参加された高校生の皆さんからは、「看護学を学



体験講義の様子

びたいという気持ちが大きかったので、大学のことだけではなく、看護学についても触れてお話していただき、より看護への興味や関心が高まりました。」「ドクターヘリもあり、医療がとても充実していると思った。」などの感想が寄せられ、参加者の皆さんにとって貴重な体験を通して有意義で充実した一日になったことと思われます。

令和5年度秋の交通安全講習会開催

令和5年10月24日（火）午後6時から大学本館303講義室において、医学部及び看護学部の学生を対象に、秋の交通安全講習会が開催され、両学部合わせて約60名が参加しました。

講師をお願いした愛知警察署交通課交通総務係の清水警部補からは、「愛知県では、午後5時から7時までの時間帯に交通事故が多発する傾向にあることから『魔の時間』として啓発をしています。夕暮れ時は視認性が悪くなるため、明るめの服装を着用し、反射材の活用や早めのライト点灯を心掛けてください。」とのお願いがありました。

また、本学でも大きな問題となっている駐車違反についても講話いただき、路上は車を停める場所ではないことから、遠回りでも指定の駐車場に駐車するように指導がありました。更に、「この交差点は相手側が一時停止だから相手は止まってくれるだろう」、「この道路はこの速度で走行しても大丈夫だろう」といった自分自身の経験・知識で運転していると予期せぬタイミングで事故に遭うことがあるため、防衛運転（かもしれない運転）を心掛けるよう



清水警部補による講習会の様子

注意喚起がありました。

最後に、愛知県が車両運転中の「ながらスマホ」防止啓発事業で作成した啓発DVD「ながらスマホはとっても危険」を視聴し、車両運転中のスマートフォン操作の危険性について確認しました。また、講習会終了後には、交通安全に関する確認テストが実施されました。

今後も学生一人ひとりが安全運転への意識を高めることができるように、啓発活動を続けて参ります。

食中毒予防講習会開催

令和5年10月24日（火）午後4時10分から大学本館たちばなホールにおいて、食中毒予防講習会が開催されました。

この講習会は、11月3日（金・祝）及び4日（土）に開催される本学医大祭において、飲食物の提供を行う模擬店を出店する学生を対象に、食品の衛生指導を行い、食中毒の発生を未然に防ぐことを目的として開催されました。瀬戸保健所環境・食品安全課食品指導グループの堂前講師から、食中毒の発生状況や主な食中毒とその予防方法についての説明及び過去の事例紹介等があり、模擬店出店時における衛生管理のポイントなどをご指導いただきました。

参加した学生からは、「食品を提供するというのことに對し高校の頃と同じ考えでいてはいけない。医大生として、何に対してどのように対策すればいいのかをよく考えながら行動したい。」「リスク管理



堂前講師による講習会の様子

について出店する仲間を確認し、食中毒が発生しないように最大限の注意を払うことに気を付けたい。」「食中毒が起きた場合の損害賠償額の多さに、大変驚いた。医大祭では、人々に迷惑をかけないように気を付けたい。」などの感想がありました。

看護学研究科特別講義開催

令和5年9月2日（土）午後1時30分から看護学部棟N201講義室において、東京大学大学院医学系研究科の池田真理教授を講師にお招きし、「キャリア・カルトグラフィー～実践と研究を統合し目的地を目指す～」というテーマで大学院看護学研究科特別講義が開催されました。

「キャリア・カルトグラフィー」とは、自分のキャリアの目的地を示す地図という意味です。全ての看護職者が自分の取り組む研究や実践が目指す目的地を書き示すことで明確化し、進むべき道やアプローチを示すことができることを、池田教授ご自身のキャリアをご紹介いただきながら分かりやすく教えていただきました。



講義を行う池田教授

後半のワークでは、参加者同士のディスカッションが行われました。講義とワークによって、参加者それぞれが自分と向き合い、自身のキャリアの目標を再認識できる有意義な機会となりました。

看護実践研究センター キュアリア支援部門 臨床倫理学習会開催

令和5年9月30日（土）午後1時から、看護実践研究センターキュアリア支援部門による臨床倫理学習会「実践できるアドバンス・ケア・プランニング～患者ののぞむ生き方を支えるために～」がZoomでのオンラインセミナーとして開催され、中部地方を中心とした看護学生を始め経験豊かな看護職など、146名が参加しました。

講師には、昨年に引き続き、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）に関わる看護実践・研究・教育の第一線で活躍されている、京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻先端基盤看護科学講座看護倫理学分野の竹之内沙弥香准教授をお招きしました。

セミナーでは、倫理の基本事項とインフォームド・コンセントが成立する要件を押さえた上で、意思決定支援における看護師の役割、ACPの定義とその課題が紐解かれました。そして、具体的な話し合いの進め方についてエビデンスを踏まえてご紹介いただきました。講義を通して、意思決定支援のプロセスとACPの理解を深めることができ、病を持つ患



オンラインセミナーを行う竹之内准教授

者さんとの話し合いの手掛かりを得ることができました。また、チャット機能を用いて参加者が抱える事例における意見が数多く寄せられ、臨場感溢れる活発な質疑応答が行われました。

セミナー後のアンケートでは、「ACPの初心者にも分かりやすかった。」「現場に即した、活かせる内容であった。」「質問にその場で答えていただく時間が十分にあったことが良かった。」等の感想が多数寄せられ、参加者の満足に繋がるセミナーとなりました。

看護実践研究センター キャリア支援部門 特別セミナー開催

令和5年10月28日（土）午後1時から、オフィスナースナレッジの江口智子代表を講師にお迎えし、看護実践研究センターキャリア支援部門特別セミナー「レジリエンスを鍛える！～しなやかに困難を乗り越え前進しよう～」がオンラインで開催【写真】され、愛知県内外の看護職及び学生など27名が参加しました。

レジリエンスとは、突発的な変化を受け止め適応することや一旦落ち込んでも回復し成長する力を意味し、近年では医療分野のみならず、ビジネス分野でも注目されています。長引くCOVID-19の影響下にあり、疲弊しがちな最前線の看護職の皆さんに役立てていただきたく、本セミナーは企画されました。

セミナーでは、心理学領域においてレジリエンスが研究されるようになった歴史的背景やレジリエンスの高い人が持つ特徴や習慣などを確認しました。



これに基づいて、変えられないものに目を向けるのではなく、明日からの自分の行動や思考を変える具体的な方法を学びました。

参加者からは、「身近な内容で取り組みやすい。」「思考を変換することで新たな視点を展開できることを実感した。」などの声が多数寄せられました。参加者にとってレジリエンスが身近になり、仕事や生活での活用に繋がるセミナーとなりました。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 令和5年度第2回愛・ながくて夢ネット研修会開催

令和5年8月23日（水）午後2時から長久手市役所西庁舎3階研修室において、看護学部看護実践研究センター地域連携・支援部門の山本恵美子准教授が講師となり、令和5年度第2回愛・ながくて夢ネット研修会が開催されました。【写真】

多職種が連携していくための人材開発を目的として、「ポジティブ心理学の発想で自分の強みを活かして多職種でつながろう～多職種連携つよみカルタの体験～」というテーマで、ポジティブ心理学のPARMA理論の紹介と「強み」について説明していただきました。説明後には、多職種連携つよみカルタのワークが行われ、交流を深める機会となりました。

今回は、地域で介護を支える多職種47名が参加し、参加者からは、「好奇心の強みを活かし、多職種の方の仕事に興味を持ち、積極的にコミュニケーション



ンを取り、関係を築いていきたい。」「サービス担当者会議などでケアマネージャーとしてリーダーシップを発揮して行きたい。」などの感想が寄せられました。

今後も、看護実践研究センター地域連携・支援部門では、地域のニーズに即した支援活動を企画していく予定です。

看護実践研究センター 地域連携・支援部門 令和5年度子づれ備災イベントへの参画

令和5年8月29(火)午前10時から長久手市の南小学校区共生ステーションにおいて、長久手市内の親子防災活動サークル(子づれ備災クラブ)主催による防災イベント「ワンデイカフェソナエル」が開催され、看護実践研究センター地域連携・支援部門の教員3名とともに看護学生4名が参画しました。

イベントでは、防災食や防災アレンジレシピを提供するカフェにおいて、本学の学生が他のスタッフと協力しながら料理・提供を行い、防災食ランチ(火を使わず、ローリングストック品を使用したおかず)には、学生が考案した一品を加えていただきました。そして、レシピを掲載したパンフレットやポスターによる啓発が行われました。また、来場した親子や子どもたちに呼びかけを行い、防災すごろくゲームを盛り上げるなど、学生は地域の方々と交流しながら、防災意識を高めることができました。



イベントに参画した学生の皆さん

主催者からは、「学生たちの主体的で積極的な参加は、より多くの参加者を楽しく巻き込むことができ大変助かった。」との声をいただきました。

今後も、看護実践研究センター地域連携・支援部門では、地域住民の皆さまのニーズに即した支援活動を企画していく予定です。

【高大連携事業】 愛知医科大学病院体験学習実施

令和5年8月4日(金)午後1時から、愛知県立長久手高等学校との高大連携事業「医療看護探究C」の授業の一環として、「愛知医科大学病院体験学習」が実施され、長久手高等学校「医療看護探究コース」の2年生20名及び3年生15名の生徒が参加しました。

当日、高校生は看護ユニフォームを着用し、3年生は中央棟の三つの病棟に分かれ臨床現場を体験しました。また、2年生は本院看護部の村松有紀副部长から「愛知医科大学病院の役割と看護のしごと」についてのお話があった後、実際の臨床現場での体験が行われました。

約1時間の病院体験を終え、看護学部棟の講義室へ移動した高校生は、実際の医療現場を見学して感じたことを共有し、振り返りを行いました。高校生からは、「医療には色々な職種の方々関わって



ユニフォームを着用し振り返りをする高校生

ることを実感しました。」「看護師さんが患者さん一人ひとりを大切に思い、また、一貫した看護を提供するための情報共有が大切であることを学びました。」などの感想があり、学習目的である「医療・看護が大切にしていること」の理解を深めることができました。

大学病院 ～新センターのご紹介～

骨盤・四肢外傷センター

愛知医科大学病院は、令和5年1月23日付けで愛知県重症外傷センター（仮称）の試行病院に指定され、他の病院で受け入れ困難と判断された重症度・緊急度が高く、生命に危険がある重症外傷患者を受け入れています。本院に搬送された整形外科患者に最適な治療を提供するため、令和5年10月1日付けで「骨盤・四肢外傷センター」が設置されました。

重症外傷患者さんの多くは骨盤・四肢外傷といった整形外科疾患を合併しますが、これまでこれらの整形外科疾患を専門に扱う施設は限られていました。その中でも、特に骨盤外傷は整形外科医が扱う最も重症な外傷疾患の一つであり、その治療においては高い専門性を要します。

これまで、東海地区においてトップクラスの骨盤・

骨盤・四肢外傷センター・部長 吉田 昌弘

寛骨臼骨折手術症例数（年間70例、合計300例以上）を執刀してきた経験を活かし、搬送された患者さんに最適な整形外科治療を提供すべく努力していきたいと考えております。

また、骨盤・寛骨臼骨折症例でお困りの患者さんが近隣の医療機関におられましたら、是非本センターにご紹介ください。

近年、症例が増加中である高齢者患者の立位レベルからの転倒受傷による脆弱性骨盤骨折症例に対しても対応しており、他の医療機関での治療に難渋されてみえる場合や手術治療の検討が考慮される患者さんについては対応させていただくとともに、高度な専門性を要する重度四肢関節内骨折症例等にも対応させていただきたいと考えております。

外来化学療法室の拡充工事実施

本院中央棟3階の外来化学療法室において拡充工事が行われていましたが、令和5年10月に既存の20床から34床に増床され、患者さんがじっくりスタッフと相談することができる相談・指導スペースが新設されました。

外来化学療法室では、各診療科が外来で行うがん患者さんの点滴抗がん剤治療及び潰瘍性大腸炎や慢性関節リウマチなどの患者さんの点滴治療を行っております。患者さんの増加に伴い、治療件数が令和4年度は約1万件を数えました。

がん薬物療法は、抗がん剤だけではなく吐き気止めなどの副作用対策等を組み合わせて「治療」の計画（レジメン）を立てます。治療の進歩に伴い使用できる薬剤は増え続けており、本院では令和5年6月時点で760種類の薬剤の組み合わせが登録されていますが、外来化学療法室では、これらの治療を実



新設された外来化学療法室

際に行い、問題点を検討し、更に改善が図れるように努めています。

そのような状況下において、患者さんが最新のがん治療を安心安全に受けていただくため、今回の拡充工事が実施されました。患者さんやご家族にとって「よりよい生活」を過ごしていただけるように、臨床腫瘍センター外来化学療法部門の岩田崇部長始め、スタッフ一同努力を続けていく所存です。

臨床研修指導医のための教育ワークショップ開催

令和5年8月26日（土）・27日（日）に東京第一ホテル錦で、18回目となる臨床研修指導医のための教育ワークショップ（WS）が開催されました。厚生労働省監督の下、開催されたこのWSには、院内から20名、学外から6名の計26名が参加しました。

卒後臨床研修センターの中野正吾センター長を始め、医学教育センターの伴信太郎医学特命教育教授及び早稲田勝久教授を中心とした運営陣に加え、学外からも豊川青山病院の松井俊和院長をタスクフォースとしてお迎えし、「研修医にとって良い指導医とは」をテーマに2日間に渡りグループ作業を中心としたWSが行われました。

受講者からは、「普段の研修医指導において注意・改善すべき点を考えることができた。」「教育に関



参加者による集合写真

わる評価項目の立案・評価の難しさを実感した。」「グループ全員で研修指導に関する問題意識を共有できた。」等の活発な意見がありました。

このWSを受講された指導医を核に、更なる臨床研修の充実が期待されています。

マネジメントリーダー・スペシャリストリーダー 認定証交付式挙行

令和5年10月4日（水）午前9時30分から中央棟3階共同カンファレンスルームにおいて、マネジメントリーダー及びスペシャリストリーダー認定証交付式が執り行われました。

マネジメントリーダーは平成28年度から導入され、今年度は新たに認定が10名、更新が13名認証されました。看護管理者は常に変化を恐れず、社会のニーズに対応した変革が求められます。院内のチーム医療に留まらず、地域全体の看護の質の向上の要となるよう、効果的な人材育成や自己の能力開発に役割発揮されることを期待しています。

また、令和元年から導入されたスペシャリストリーダーは、今年で5年目となります。今年度は新たに認定が3名、更新が5名認証されました。先見性と広い視野を持ち、専門性及びリーダーシップを発揮しながら組織横断的な活動だけでなく、地域へと発展的に活躍していくことを期待しています。



マネジメントリーダー認定者



スペシャリストリーダー認定者

中堅看護師研修実施

令和5年10月27日（金）午後3時30分から大学本館たちばなホールにおいて、中堅看護師研修が実施されました。研修には、看護学部の高橋照子特命教育教授を講師にお招きし、看護師44名が参加しました。

本研修の参加対象である中堅看護師は、各部署の中心的存在として部署の係活動を推進し、スタッフの指導やリーダーとして看護師長及び主任を支える役割を担っています。部署の中心として活動する中で、自分の看護をしっかりと持ち、柔軟に、やりがいを持って仕事ができるようにするためにはどうすれば良いのかを考え、また、実践することができるようになることを目的として本研修は実施されました。

高橋特命教育教授からの、何事も前向きに捉え、



講演を行う高橋特命教育教授

目標に向かって取り組む姿勢についてのお話は、自分たちが行うべき看護について振り返ることができ、仕事のやりがいについて考えるきっかけになったのではないのでしょうか。

今後、それぞれの看護師がやりがいや達成感を持ち、各部署で中心となって活動するための一助となる研修となりました。

学外有識者とドクターズクラークとの懇談会開催

本院では、医師事務補助体制の整備及び医師の働き方改革実施に向け、医療法人社団白梅会理事の小林利彦先生を有識者としてお招きし、令和5年10月19日（木）大学本館701会議室において、ドクターズクラークとの懇談会が開催されました。

医師事務作業補助者体制加算の15対1を届出する今、更に「ドクターズクラークの質の向上」を図り、医師の働き方改革や病院経営に貢献する必要があります。懇談会開催の目的は、現場のメンバーが困っていることや悩んでいることに対し、小林先生からアドバイスをいただくことで、チーム力やモチベーションを向上させることです。

当日は、ドクターズクラークを経験年数で2班に分け、それぞれの班に対し懇談が行われ、小林先生から「ドクターズクラークに期待すること」について説明があった後、メンバーからの質問を中心とし



アドバイスをを行う小林先生

たディスカッションが行われました。医師事務作業補助者の32時間研修で講師を務める小林先生のお話は分かりやすく、興味深いものでした。

医師の働き方改革を進める上で、今後も勉強会等を通じ教育を積み重ね、医師でなくてもできることは、できる限りドクターズクラークにタスクシフトできるように体制を整えていきます。

学生アルバイト「愛Crew」集合研修実施

国が看護業務のスリム化や看護の専門性発揮のためタスク・シフト／シェアなど看護師の働き方改革を推し進める中、看護補助者の活用に関する診療報酬加算が加担し、令和2年に夜間看護補助体制を構築するためのプロジェクトがスタートしました。この夜間看護補助者「愛Crew」は医大生及び看護学生アルバイトによって構成され、活動開始から3年目を迎えました。今や夜間の患者さんの療養環境をより良くするために欠かせない存在となっています。

このたび、令和5年8月19日（土）午前10時から医療チームの一員として看護補助業務の理解を更に深めることを目的に「愛Crew」の集合研修が実施されました。研修は、活動開始から毎年オンラインで行われてきましたが、今年度は初めて対面での研修として実施することができました。

研修では、約80名の参加者がペアになり、患者さんが寝る前の時間を想定して、下肢をホットタオルで温める直接ケアについて学びました。コリをほぐ



「愛Crew」によるホットタオルを用いた直接ケアを行う実技演習の様子

し、リラクゼーションによる気分転換を図るための技術を習得し、患者さんとのコミュニケーションに必要な手法などを学ぶなど、実り多い研修となりました。

本研修において修得した知識や技術が入院中の患者さんに還元され、患者満足度の向上に繋がることを期待します。

眼科クリニックMiRAIラジオ市民公開講座開催

令和5年10月1日（日）CBC本館第一スタジオにおいて、ラジオ市民公開講座「今、知っておきたい！目の病気Ⅱ無料講演会」が開催されました。また、9月に放送されたCBCラジオ「多田しげおの朝からP・O・N」では、目の病気について眼科クリニックMiRAIの医師が計4回出演し、本講演会の告知を行いました。

講演会には、眼科学講座の瓶井資弘教授、眼科クリニックMiRAIの三木篤也クリニック長及び眼科の河野伸二郎助教が出演し、目の病気の講演及びコメンテーターとのパネルディスカッションが行われました。【写真】当日は85名の方にご参加いただき、盛況な講演会となりました。また、講演会の様子は、令和5年10月22日（日）午後5時30分からのCBCラジオ特別番組において放送され、CBCラジオサ

「多田しげおの朝からP・O・N」



イト内のYouTubeでも配信されました。

眼科クリニックMiRAIでは、今後も地域の方々に向けて講演会を開催し、クリニックの知名度・認知度向上を図っていきます。

放送日	テーマ	出演者
9月4日（月）	緑内障について	三木 篤也（眼科クリニックMiRAI・クリニック長）
9月11日（月）	まぶたについて	河野伸二郎（眼科・助教）
9月18日（月・祝）	糖尿病網膜症について	瓶井 資弘（眼科学講座・教授）
9月25日（月）	白内障手術について	馬場 圭太（眼科学講座・助教）

愛知医大サービス株式会社 JAあいち尾東産直市場が再開

令和5年8月22日（火）及び11月17日（金）立石プラザ（アメニティ棟）1階テラス付近において、JAあいち尾東長久手支店の産直市場が4年ぶりに開催されました。【写真】以前は毎回楽しみに足を運んでくださる方がたくさんいらっしゃいましたが、近年はコロナ禍の影響で開催することができず、かねてより再開を待ち望むお声を多くいただきました。

8月開催では厳しい暑さの中、新鮮な夏野菜が並び、とうもろこしやシャインマスカットが大人気でした。11月はあいにくのお天気となりましたが大勢のお客で賑わい、ほうれん草やネギ、ブロッコリーなど、長久手近郊で採れたばかりの野菜がお値打ちに販売されました。みかん、ラ・フランスなどの果



物や、クリスマスが近いということでポインセチアの鉢、もちりとした食感が特徴の米粉パンが好評で、人気の高い商品は早々に売り切れとなりました。

久しぶりに賑わいを取り戻した産直市場では、多くの患者さんや職員が楽しそうに買い物を行う様子が見受けられ、喜ばしい限りです。

韓国小児糖尿病人協会及び韓国総領事館による視察

このたび、社会福祉法人ユーアンドアイ（学校法人佑愛学園）の丹羽司一理事長からのご紹介により、韓国総領事館から韓国政府の国際交流プロジェクトの一環で韓国小児糖尿病人協会における日本研修の一つとして、令和5年9月16日（土）にメディカルセンターの視察が行われました。

当日の参加者として、本センターからは、羽生田正行病院長、勝野敬之診療部長（腎臓病センター長）、小川泰宏事務部長の3名が出席し、当該協会のイ・ホンギョ名誉理事長（ソウル大学医学部名誉教授）を含む10名及び臨席者として韓国総領事館のキム・ヨンハン氏、日韓議員連盟所属で衆議院議員の重徳

和彦氏、丹羽理事長の3名が来院されました。

到着後、講義室にて羽生田病院長からのあいさつを始め、懇談会を開催した後、腎臓病センター長である勝野診療部長のアテンドにより腎臓病センターの視察が行われ、先方からも多数の質問が挙がり、活発な意見交換が行われました。

最後には、羽生田病院長へ感謝状の授与が行われ、イ名誉理事長から「慢性病に対する取り組みは不十分なため、今回の日本研修で学んだことを韓国医療の発展にも繋げていきたい。」とのごあいさつがあり、和やかなムードの中、視察は終了致しました。



腎臓病センター視察風景



感謝状授与



集合写真

メディカルセンター病院説明会開催

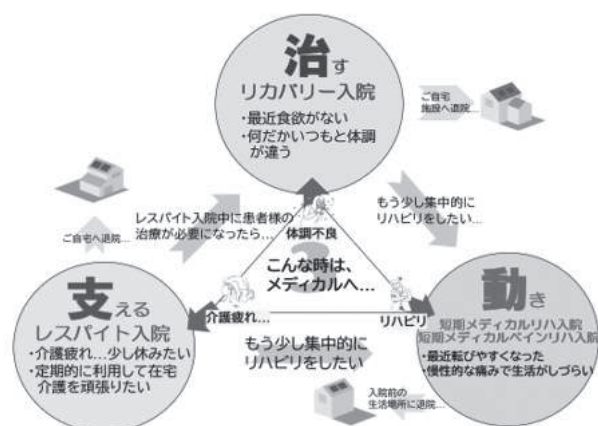
令和5年10月30日（月）午後3時からメディカルセンターにおいて、地域のケアマネージャー及び訪問看護ステーションを対象とした病院説明会がハイブリッド方式で開催されました。

在宅療養患者のフレキシブルな入院受け入れ体制（レスパイト入院，短期メディカルリハ入院，短期メディカルペインリハ入院）の説明に加えて，本学リハビリテーション医学講座の尾川貴洋教授による講演が行われ，会場79名，Web53名，計132名が参加しました。

説明会終了後には，院内見学会（リハビリテーション室，腎臓病センター，検査室）が行われ，参加者は現場担当者の説明を熱心に聞かれていました。



尾川教授による講演の様子



メディカルセンター三つの「治し，支える」入院医療

今後も地域の方々と連携を強化し，メディカルセンターの知名度・認知度向上を図っていきます。



リハビリテーション室見学の様子

トルコ・シリア大地震における本学からの国際緊急援助隊 救助・医療チーム派遣者に対しJICAから感謝状贈呈

令和5年2月6日（月）に発災したトルコ・シリア大地震においては，本学から国際緊急援助隊・救助チーム隊員として救急集中治療医学講座の苛原隆之准教授（特任），国際緊急援助隊・医療チーム隊員として看護部の川谷陽子看護師長，高柳佳弘主任，岡崎智絵看護師および中央放射線部の古賀善明放射線技師がそれぞれ派遣されました。

このたび，令和5年10月に独立行政法人国際協力機構（JICA）の理事長から，トルコ共和国での地震被害における救援活動に従事した派遣者5名及び事業所に対し感謝状が贈呈され，道勇学病院長への報告があった後，道勇病院長から派遣者に対して労いの言葉とともにJICAからの感謝状が手渡されました。



道勇病院長との記念撮影

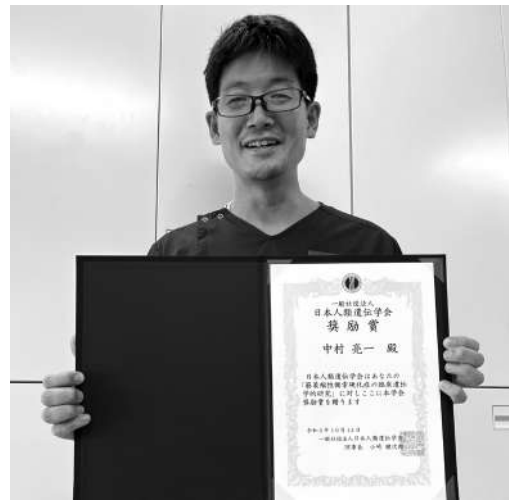
感謝状が贈呈された派遣者を代表して，高柳主任からは，「このたび，2月に発生したトルコ地震への国際緊急援助隊派遣で表彰いただきました。派遣に当たり，病院，そして多くの職員からの励ましの声とご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。」との感想がありました。

内科学講座（神経内科）中村 亮一講師 日本人類遺伝学会 第68回大会 令和5年度日本人類遺伝学会奨励賞受賞

内科学講座（神経内科）の中村亮一講師【写真】が、令和5年10月14日（土）に都市センターホテルで開催された日本人類遺伝学会第68回大会において、「令和5年度日本人類遺伝学会奨励賞」を受賞しました。

これは、日本人類遺伝学会において、「筋萎縮性側索硬化症の臨床遺伝学的研究」が、学術研鑽に励み将来性のある研究として優秀な業績を挙げたことについて高く評価されたものです。

受賞した中村講師からは、「この度は令和5年度日本人類遺伝学会奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。これまで研究をご指導いただいた祖父江先生、道勇先生、熱田先生を始めとする多くの先生方に深謝申し上げます。今回の受賞を励みに、筋萎縮性側



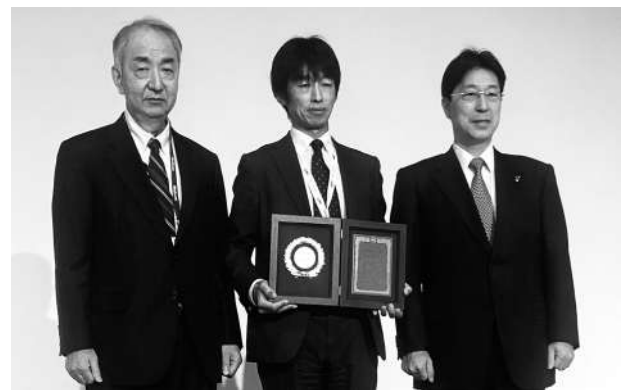
索硬化症の遺伝学的背景の解明から病態解明、治療法の開発を目指し、より一層の研鑽を重ねて参りたいと考えております。」との感想がありました。

外科学講座（血管外科）児玉 章朗教授 第64回日本脈管学会学術総会 第2回高安右人賞受賞

外科学講座（血管外科）の児玉章朗教授が、令和5年10月26日（木）から28日（土）までの3日間にわたりパシフィコ横浜ノースで開催された第64回日本脈管学会学術総会において、第2回高安右人賞を受賞しました。

これは、近年日本において脈管学領域で顕著な業績を上げ、今後もこの分野で中心的な役割を果たすことが期待される研究者1名に対し授与されるものであり、児玉教授の「包括的高度慢性下肢虚血血行再建後の臨床的転帰に関する研究」が、当該領域において非常に貴重なRCTのpost hoc解析、多施設前向き研究の解析を行ったのみでなく、技術的難易度の高い手術成績も報告したことが高く評価されたものです。また、Global Vascular Guidelineに数本の研究が引用されていることは、日本人として稀なことです。

受賞された児玉教授からは「このたび、名誉ある



受賞された児玉教授（中央）

賞を受賞し、大変恐縮しております。本邦は世界でも有数の高齢化社会であり、動脈硬化性疾患患者さんが増加しています。下肢閉塞性動脈硬化症の最重症群である包括的高度慢性下肢虚血は、一般にハイリスクの患者さんが多く、血行再建の技術的難易度も高いため、血管外科領域において最もチャレンジングな疾患群の一つです。今回の受賞を機に、一層精進していきたいと考えております。」との感想がありました。

病院事務部クリーンスタッフ 鈴木 祥之さん 全国障害者スポーツ大会（ボウリング競技壮年男子）銀メダル獲得

令和5年10月28日（土）から30日（月）までの3日間にわたり開催された特別全国障害者スポーツ大会「燃ゆる感動かごしま大会」において、名古屋市選手団（選手36名、役員36名）の選手として病院事務部クリーンスタッフの鈴木祥之さんが参加し、ボウリング競技壮年男子の第2位となり、銀メダルを獲得しました。

全国障害者スポーツ大会は、障がいのある選手が協議等を通じてスポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がいのある方々の社会参加の推進に寄与することを目的として開催される全国的な祭典です。令和2年に第20回大会が開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により延期となり、令和5年に特別大会として開催されました。



メダルを獲得した鈴木さん（左）と道勇学病院長による記念撮影
受賞された鈴木さんからは、「毎週金曜日は、運動療育センターを利用し体力強化を行い、また、週末は名古屋市内のボウリング場で練習に励んでおり、日頃の努力と周りの方々の応援が今回のメダル獲得に繋がりました。今後も挑戦していきたいと思っています。」との感想をいただきました。

学 位 授 与

◆大学院医学研究科



中島 真治

学位授与番号 甲第666号
学位授与年月日 令和5年9月14日
論文題目：「Determination of treatment efficacy after revascularization of intermittent claudication patients by physical function assessment (身体機能評価による間欠性跛行患者に対する血行再建後の治療効果判定)」



中川 未久

学位授与番号 甲第667号
学位授与年月日 令和5年9月14日
論文題目：「The utility of serum copper/zinc ratio for evaluating the pathophysiology of Alzheimer's disease (血清銅／亜鉛濃度比のアルツハイマー型認知症の病態評価に対する有用性)」



見崎 知子

学位授与番号 甲第668号
学位授与年月日 令和5年10月12日
論文題目：「Population Pharmacokinetics and Limited Sampling Strategy for Therapeutic Drug Monitoring of Mycophenolate Mofetil in Japanese Patients with Lupus Nephritis (日本人ループス腎炎患者におけるミコフェノール酸モフェチルの治療薬物モニタリングのための母集団薬物動態と限定サンプリング法)」



宇賀神 基

学位授与番号 乙第424号
学位授与年月日 令和5年9月14日
論文題目：「Anticoagulant Use as an Independent Risk Factor and Higher In-Hospital Mortality in Patients Showing Alveolar Hemorrhage in Diffuse Lung Disease (びまん性肺疾患において、抗凝固薬の使用は肺胞出血の独立した危険因子であり、肺胞出血症例は高い死亡率を示す)」



小野 澄比佐

学位授与番号 乙第425号
学位授与年月日 令和5年9月14日
論文題目：「Intimal growth on the luminal surface of arteriovenous grafts in rats(ラットを用いた動静脈人工血管内シャントにおける内腔壁の内膜新生)」



鈴木 航

学位授与番号 乙第426号
学位授与年月日 令和5年10月12日
論文題目：「Association between coronary flow and aortic stenosis during transcatheter aortic valve implantation (経カテーテル的大動脈弁置換術中における冠動脈血流と大動脈弁狭窄症の関係)」

◆大学院看護学研究科



高田 尚子

学位授与番号 第171号
学位授与年月日 令和5年9月29日
論文題目：「壮年期に介護離職した男性介護者の介護体験」

外国人研究員のご紹介

本学において研修するため、外国人研究員として来学された方をご紹介します。(敬称略)



ホセ ミゲール ジュイニオ アンバト
Jose Miguel Juinio. Ambat

国 籍：フィリピン
現 職：ファティマ大学眼科・訪問
コンサルタント

受入講座：眼科学講座

研究期間：R5.9.1～R6.8.31（12か月）

研究課題：上眼瞼における血管・リンパ管の解剖特
性の解明と、手術後の組織腫脹を最小限
に抑える手術方法の開発



ビス瓦斯 ミットウンジョイ
Biswas Mrityunjoy

国 籍：バングラデシュ
現 職：ラジシャヒ大学生化学・
分子生物学科・研究員

受入講座：生化学講座

研究期間：R5.10.1～R6.1.23（4か月）

研究課題：ゲノム編集技術の改良研究



ジョナ クリスタ テオベ
Jonnah Krista Teope

国 籍：フィリピン
現 職：医療シティー病院・眼科
コンサルタント

受入講座：眼科学講座

研究期間：R5.10.1～R6.9.30（12か月）

研究課題：上眼瞼における血管・リンパ管の解剖特
性の解明と、手術後の組織腫脹を最小限
に抑える手術方法の開発

令和6年度科学研究費助成事業申請状況

研究種目	申請件数（件）	申請金額（千円）
国際共同研究加速基金 （国際共同研究強化）	1	4,620
学術変革領域研究（A）（公募研究）	3	12,000
基盤研究（A）（一般）	1	16,798
基盤研究（B）（一般）	14	90,854
基盤研究（C）（一般）	101	187,201
挑戦的研究（萌芽）	9	17,305
若手研究	36	66,533
奨励研究	2	2,000
ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI	1	500
合 計	168	397,811

※令和5年8月1日～10月31日時点での数字を掲載。

※申請金額は令和6年度の申請額（直接経費）。

研究助成等採択者

◇一般社団法人日本私立看護系大学協会

研究助成

・氏名 志水己幸（看護学部・助教）
 研究題目 病院で働く看護職の多重課題
 遂行の現状と自律性との関連
 助成金額 416,000円

◇公益財団法人武田科学振興財団

医学系研究助成（感染領域）

・氏名 萩原真生（分子疫学・疾病制御学寄附講座・准教授）
 研究題目 宿主のウイルス性呼吸器感染症に対する抵抗性の向上を目的とした腸内細菌叢が産生する中鎖または長鎖脂肪酸の探索とその作用機序の解明
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団 基礎医学医療研究助成

・氏名 丸山健太（薬理学講座・教授）
 研究題目 大腸癌生物学の新機軸開拓
 助成金額 500,000円

◇ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

J&J Medical Research Grant

（研究助成プログラム）

・氏名 馬嶋剛（泌尿器科学講座・准教授）
 研究題目 下部尿路閉塞と排尿筋低活動の鑑別における尿中バイオマーカーの有用性についての検討
 助成金額 400,000円

◇公益財団法人SGH財団 SGHがん研究助成

・氏名 丸山健太（薬理学講座・教授）
 研究題目 腸管内核酸環境制御による大腸癌制圧の試み
 助成金額 1,000,000円

◇公益財団法人日本移植学会

JST basic research grants

・氏名 雫真人（腎移植外科・助教）
 研究題目 Single cell RNA sequence解析とT細胞受容体レパトア解析を組み合わせた新たな臓器移植後のDSA産生予測モデルの開発
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人日東学術振興財団 研究助成

・氏名 小松紘司（生理学講座・講師）
 研究題目 卵子の質を向上させる栄養因子の探索とその作用のメカニズムの解明
 助成金額 2,000,000円
 ・氏名 林富雄（歯科口腔外科・講師）
 研究題目 口腔扁平上皮癌における免疫抑制機構を、がん組織、がん細胞株を用いて免疫抑制関連分子の免疫染色、遺伝子発現、発現たんぱくの検出により明らかにし、抑制機構の解除に基づいた新たな免疫治療法の開発
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人日東学術振興財団

海外派遣助成

・氏名 茂木幹雄（糖尿病内科・助教（医員助教））
 学会名 NeuroDiab the 33rd annual meeting of the diabetic neuropathy study group
 助成金額 500,000円

◇公益財団法人日本対がん協会

「プロジェクト未来」研究助成

・氏名 丸山健太（薬理学講座・教授）
 研究題目 大腸癌生物学の新境地開拓
 助成金額 3,000,000円

◇公益財団法人住友財団 基礎科学研究助成
 ・氏名 丸山健太(薬理学講座・教授)
 研究題目 大腸癌生物学の新機軸開拓
 助成金額 1,500,000円

◇公益財団法人鈴木謙三記念医科学応用研究財団
 調査研究助成
 ・氏名 榊原伊織(生理学講座・講師)
 研究題目 運動によるエピゲノム制御機構の解明
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人安田記念医学財団
 基礎科学癌研究助成
 ・氏名 丸山健太(薬理学講座・教授)
 研究題目 腸管内核酸環境制御による大腸癌制圧の試み
 助成金額 2,000,000円

◇公益財団法人日本糖尿病財団
 ベーリンガーインゲルハイム研究助成
 ・氏名 三浦絵美梨(内科学講座(糖尿病内科)・助教)
 研究題目 腸上皮におけるグルカゴンシグナルを介した糖新生の代謝栄養学的役割の解明
 助成金額 1,800,000円

令和5年度科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 交付決定

令和5年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)が採択され、次のとおり交付決定がありました。
 (金額単位:千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研究課題
研究活動 スタート支援 (基金)	丸谷 紗穂 看護学 学部 母子看護学, 助教	600	180	生後1か月の第一子を育てる父親の体験 -夜間の睡眠に着目して-
〃	川越 隆 医学 学部 衛生学講座, 講師	600	180	足操作による視覚認知・運動機能トレーニングが 高齢者の認知・身体機能に及ぼす影響

- ・令和5年10月31日時点の情報を掲載。
- ・課題番号順にて記載。
- ・氏名は、e-Rad(府省共通研究開発管理システム)研究者登録名にて記載。
- ・「交付決定通知」を基に作成。
- ・今年度請求額を記載。

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 委託研究開発契約の締結

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題が採択され、次のとおり研究契約を締結しました。
 (金額単位:円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	研究開発課題名
創薬基盤推進研究事業	祖父江 元長 学	39,000,000	筋萎縮性側索硬化症の大規模患者レジストリ と患者iPS細胞を活用した産学共同新規創薬 開発研究
次世代がん医療加速化研究事業	丸山 健太 医学 学部 薬理学講座, 教授	13,000,000	Piezo1シグナルによる大腸癌の進展制御に関 する研究開発

- ・令和5年8月1日から10月31日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構 増額に伴う委託研究開発変更契約の締結

令和5年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究課題について、委託研究開発費の増額に伴い、次のとおり変更契約を締結しました。(金額単位：円)

研究事業名	研究開発担当者	委託研究開発費	増額後委託研究開発費(増加額)	研究開発課題名
医療機器等研究成果 展開事業	井 上 匡 央 医 学 部 内科学講座(肝胆臓内科), 准教授	26,000,000	39,000,000 (13,000,000)	内視鏡的胆管内バルーンアブレーション治療に関する研究開発

- ・令和5年8月1日から10月31日までの日本医療研究開発機構委託研究の代表課題を記載。
- ・委託研究開発費は、他機関への再委託費及び間接経費を含む。

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・第32回愛知眼科フォーラム	令和5年9月3日(日)	瓶井 資弘
・第83回日本解剖学会中部支部学術集会	令和5年10月7日(土)・8日(日)	内藤 宗和
・第17回小児神経放射線研究会	令和5年10月28日(土)	奥村 彰久

第32回愛知眼科フォーラム

眼科学講座・教授 瓶井 資弘

令和5年9月3日(日)名古屋市中区栄の興和株式会社本社ビルにおいて、第32回愛知眼科フォーラムが開催されました。本学眼科学講座が主催し、毎年1回開催している愛知眼科フォーラムは、一般眼科医、視能訓練士に公開している眼科全般の学会です。

特別講演では、杏林大学医学部附属病院眼科の岡田アナベルあやめ教授をお招きし、「Border diseases：メディカルレチナとぶどう膜炎の境界に存在している疾患」と題したご講演をいただき、Young Investigator講演として岡山大学大学院医歯薬学総合研究科眼科学の木村修平講師からは、「黄斑下出血の病態と治療」と題したご講演を行っていただきました。また、本学眼科学講座と関連病院から16題の一般演題の発表があり、いずれも高度な眼



本学参加者による集合写真

科医療、高い水準の研究を示すもので、活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに大会を終了することができました。

最後に、本学会を開催するに際しまして、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援いただきましたことを、この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

第83回日本解剖学会中部支部学術集会

解剖学講座・教授 内藤 宗和

令和5年10月7日（土）及び8日（日）本学において、第83回日本解剖学会中部支部学術集会が開催されました。東海・北陸地区の研究者・技術者の方々が延べ64名集まり、幅広い分野・テーマで19演題の発表が2日間に分けて行われました。

形態学を軸とした多くの興味深い発表があり、専門家や研究者による有益な議論と交流が行われました。今回の機会を得て、新たなアイデアの創出や連携の機会が生まれたことと思います。会場には、岐阜大学の千田隆夫教授のお心遣いで、歴史ある解剖掛図の展示が行われました。また、一般発表・学生

セッションに引き続き、初めての試みとなる解剖技術討論会が開催されました。この討論会では、解剖学講座と他の2大学の解剖技術者が各大学の取り組みについて発表し、討論・質疑応答が行われました。皆さまのご協力により、盛会のうちに大会を終了致しました。

ご協力いただきました全ての方々へ、そして、本学会の開催に当たり、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援を賜りましたことを、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第17回小児神経放射線研究会

小児科学講座・教授 奥村 彰久

令和5年10月28日（土）京都府立大学図書館ホールにおいて、第17回小児神経放射線研究会が開催されました。小児神経放射線研究会は、頭部MRIを始めとする小児の神経画像を学ぶ会として、放射線科医や小児科医を始め脳神経外科医などの多様な専門家が集まる会です。小児の神経画像はややマニアックな分野で、それに精通した研究者は限られています。小児神経放射線研究会では全国から研究者が集い、新しい知見や稀な症例の経験などを共有して、ざっくばらんにディスカッションする貴重な機会です。今回は、コロナ禍の影響からも解放され、会場参加のみの研究会として開催されました。

研究会のテーマは「楽しく学ぼう、新しい知見」とし、日本全国から78名の方々にご参加いただき、

盛会に開催することができました。内容は、特別講演3題、一般演題15題と充実していました。特別講演は、いずれも最新の内容を含む興味深いもので、参加者の知識の向上に繋がったことと思います。一般演題も貴重な報告ばかりで、活発なディカッションが行われました。久しぶりに対面でのコミュニケーションができて、皆さまの刺激になったのではないかと思います。

本研究会の開催に当たりましては、一般財団法人愛知医科大学愛恵会からご支援をいただきました。おかげさまで大きなトラブルもなく、無事に研究会を終えることができました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

形に残る具体的な教育

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】

現在の麻酔はデバイス、薬剤の進歩により安全性が向上し、標準化されてきました。誤解を恐れず言えば「容易になった」とも言えるでしょう。車の運転のようにきちんとルールを守って運転すれば、比較的安全に行うことができます。このような時代背景で、これからの麻酔科医に求められるものは何でしょうか。それは、「安全で確実な手技」、「サブスペシャリティの取得」、「トラブル対応」ではないかと私は考えています。重要であるのは、これらを「具体的に」学んでいくことです。

本学麻酔科学講座では「形に残る教育」をスローガンに具体的な教育を展開しています。学び始めた若い先生方が数年後に「ただ頑張った」だけではなく、例えば、エコーを用いて確実に手技を一人で完遂できることや勉強して取得した資格といった「目にみえる形」にすることで自信を持って臨床経験を積んでいただくことを目指しています。

さて、「専門医」とは何でしょうか。私は「チームの行動判断に関わる医師」と考えています。そのためには、他の診療科の先生方に対してリスペクトを持ち、論理的で建設的な「提案ができる」必要があります。例えば、出血などのトラブルが生じた時にこそ頼りになり、行動判断ができる医師が「専門医」と考えます。これにはやはり経験が必要です。このように考えると専門医資格や各種資格を取得すること自体はゴールではなく、スタートラインであると言えます。若い先生方が資格を取得し、経験を積んで最終的に「専門医」になっていただけることを目標に指導に当たっています。



基本手技のマンツーマン指導

麻酔科学講座・教授（特任） 野手 英明

【世界に発信する医学研究】

前述のように現代の麻酔は車の運転のように比較的安全に行うことができます。しかしながら、手術を受ける患者は年々高齢化し、これが改善することはありません。高齢者では、全身麻酔によりPOCD (postoperative cognitive disorder) を引き起こすことが知られています。「何かおじいさん、手術してから少しボケちゃったみたい。」と、一昔前まで言われていた症候はPOCDとして概念化されています。その原因の一つに、手術中の低血圧があります。血圧が120mmHgであっても高齢者にとっては低いということがあります。なぜ、出血しない手術でも血圧が下がるかと言えば、麻酔薬の影響もありますが、陰圧呼吸である自発呼吸を陽圧呼吸である人工呼吸に変えることで肺血流の減少から左室の前負荷の低下が起るためです。痛いことをしても動かない、かつ、自発呼吸が温存されれば血圧は下がらないと言えます。本学麻酔科学講座では、症例によって神経ブロックを併用し、全身麻酔と同じくらい深い鎮静で術中の体動がほぼない状態で手術を施行していただいています。この方法論を確立することが研究課題の一つです。

【部署からの一言】

具体的な教育がある点は、本学麻酔科学講座の良いところだと考えています。新たな経験を求めて本学を旅立つ時に、どの施設においても通用するスキルと知識を持ち、幅広い選択肢の中から将来を選択していただけるように育成することが、私たちの守備範囲だと思っています。まずは、麻酔科専門医を取得するまでの大切な3年間、これからの基礎を築くために、私たちと一緒に頑張ってみませんか。



挿管患者の歩行リハビリを行う様子

～大学・病院を支える笑顔豊かなスタッフ陣～

「Smile ～スマイル～」では、大学・病院で活躍する職員の笑顔にスポットライトを当てて、各部署における活動内容や取り組み等について紹介致します。

造血細胞移植センター

造血細胞移植センターは、血液内科、小児科、造血細胞移植振興寄附講座が中心となって平成30年に設立されました。本センターでは、白血病や骨髄異形成症候群、骨髄腫、アミロイドーシス、リンパ腫、再生不良性貧血などの血液難病の根治を目指し、造血細胞移植を行っています。最新の高機能無菌病室を備え、造血細胞移植の安全性と有効性を高めるため、他診療科やリハビリテーション科、栄養部、輸血部といった複数の診療部門との連携を重視しています。

令和2年には、日本造血・免疫細胞療法学会の移植施設認定基準で最高位のカテゴリー1の認定を受けました。血液疾患に関わる診療科に留まらず、臓器横断的・集学的診療を主眼に置いた本センターは、特色あるア



カンファレンスの様子

プローチで多くの関心を集めています。私たちのミッションは、愛知医科大学の特色と強みを最大限に活かし、血液疾患を治療し、健康な社会生活を取り戻すことで、患者さんと社会に貢献することです。

病院経営企画室

病院経営企画室は、病院の経営改善に必要な戦略的施策を企画し実施するために設置され、室長は病院長が指名した副院長が務め、その補佐に室長が指名した兼務の副室長が2名所属しています。部屋は本院中央棟3階に位置し、事務職員が常駐しています。

病院経営企画室の業務内容は、「病院の経営改善に必要な診療実績などの調査・分析に関すること」、「病院の経営において改善すべき課題の解決及び具体的な施策についての企画立案に関すること」、「関係部署、委員会等に対する経営改善に必要な情報提供、提案に関すること」、「病院の経営改善に必要な委員会、プロジェクト等の設置、運営に関すること」などです。

週一回開催している病院経営企画室ミーティングは、室長、副室長、看護部副部長及び事務職員をメンバー



ミーティングの様子

とし、オブザーバー参加の病院長を加えて、各種診療実績データを分析・検討し、病院経営改善のための方策を企画・実施しています。

規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

「メディカルセンター事務部事務分掌について」の一部改正

「メディカルセンター事務部事務分掌について(法人本部長・事務局長裁定)」の一部が改正され、メディカルセンター事務部に新たに設置される経営企画課の業務に関し必要な事項が整備されました。

施行日は令和5年7月1日

「気象災害に係る対応指針」の制定等

台風を始めとする気象災害が発生した際の教職員及び学生の対応等に関し必要な事項を定めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年10月1日

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学気象災害に係る対応指針
(理事長裁定)

【全部改正】

- ・台風災害に係る非常配備計画 (学長裁定)

学則の一部改正

愛知医科大学学則の一部が改正され、令和6年度における医学部愛知県地域特別枠の入学定員について、令和5年度に引き続き10名とすることになりました。

施行日は令和5年4月1日

メディカルデータサイエンス教育プログラム委員会規程の制定等

文部科学省の数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度実施要綱に基づく教育プログラムを実施するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年10月23日

【新規制定】

- ・愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム委員会規程
- ・愛知医科大学メディカルデータサイエンス教育プログラム評価委員会規程

医学研究科がんプロフェッショナル養成プログラム教育委員会規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科がんプロフェッショナル養成プログラム教育委員会規程の一部が改正され、委員会の構成、審議事項等が整備されました。

施行日は令和5年10月1日

「総合学術情報センター（図書館部門）における複写等料金について」の一部改正等

総合学術情報センターにおける各種料金を改めるため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年10月1日

【一部改正】

- ・総合学術情報センター（図書館部門）における複写等料金について（理事長裁定）
- ・総合学術情報センター（情報基盤部門）電子計算機等利用に係る経費負担について（理事長裁定）

インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の一部改正

愛知医科大学病院インフォームド・コンセントの適切な実施に関する規程の一部が改正され、診療行為に関する説明同意文書の様式を改めるために必要な事項が整備されました。

施行日は令和5年10月1日

がん診療連携拠点病院運営委員会規程の 制定等

がん診療連携拠点病院の運営体制を強化するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年10月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院がん診療連携拠点病院運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院がんセンター運営委員会規程

【廃止】

- ・愛知医科大学病院がん診療連携拠点病院準備委員会要綱

骨盤・四肢外傷センター設置に係る 関係規則の整備

中央診療部に新たに骨盤・四肢外傷センターを設置するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年10月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院骨盤・四肢外傷センター規程
- ・愛知医科大学病院骨盤・四肢外傷センター運営委員会規程

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院中央診療部に関する規程

放射線障害予防規程の一部改正等

原子力規制委員会の立入検査での指摘事項及び関係法令の改正に対応するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年10月1日

【新規制定】

- ・点検及び校正実施細則

【一部改正】

- ・愛知医科大学病院放射線障害予防規程
- ・愛知医科大学病院特定放射性同位元素防護規程
- ・愛知医科大学病院特定放射性同位元素に係る防護措置の実施要領
- ・放射性同位元素等に係る保管記録細則

眼科クリニックM i R A I 電気保安規程の一部改正

愛知医科大学眼科クリニックM i R A I 電気保安規程の一部が改正され、サイバーセキュリティの確保に関する事項が整備されました。

施行日は令和5年9月1日

「医療における安全管理指針」の裁定

メディカルセンターにおける医療安全に関する基本的な事項を定めるため、医療における安全管理指針（メディカルセンター病院長裁定）が整備されました。

施行日は令和5年10月1日

メディカルセンター医薬品製造販売後調査 実施要綱の制定

メディカルセンターにおける医薬品の製造販売後調査に関し必要な事項を定めるため、愛知医科大学メディカルセンター医薬品製造販売後調査実施要綱が制定されました。

施行日は令和5年11月1日

総合医学研究機構核医学実験部門放射線 障害予防規程の一部改正等

関係法令の改正に伴い、必要な事項を整備するため、以下の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも令和5年10月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構核医学実験部門測定器点検・校正実施要領

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部附属総合医学研究機構核医学実験部門放射線障害予防規程